

東京桑野会会報



画：宮本興一郎（71期）



No.25



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

世はインターネット時代である。IT革命のパワーはすさまじく、われわれの生活全般が大いなる変革を余儀なくされている。私もパソコンを求めEメールなどを始めているが、想像を超える便利な機械が発明されたものだと思う。コンピュータを通じて凡ゆる情報が広汎にかつスピーディに入手出来る。ニューヨークの友人は毎日、日本の新聞のホームページにアクセスして情報を入手しているので外国にいる気がしないと言っていた。私もワシントンのホワイトハウスのホームページにアクセスしてみたら、ブッシュ大統領の記者会見が音声としても聴けるので驚いた。新聞などのメディア企業の経営はこれから大きな影響を受けるのであろう。

Eメールも凄い。アドレスさえわかれば世界の何処にいてもメッセージを届けることが出来るので、郵便制度は大きな試練を迎えることになるのであろう。

外国の僻地に赴任する青年海外協力隊の若者達は「手紙は届きにくいらしいのですが、インターネットが通じていると聞いたので安心です。写真も送れますので」と述べていた。

商店についても将来インターネットで商売し倉庫と小さな事務所だけで巨大な売上額を達成する“店のない商店”が出現することも考えられる。

ともかく、Yahooで思いつくままに入力してみると立ち所に関連情報が山程出てくるのだから驚いてしまう。

東京桑野会でもホームページを立上げることになりこの方面に詳しい若手会員の努力で3月1日オープンした。今年の総会案内はインターネットでも為されることになると思う。今後は会員諸兄の間でこのホームページを大いに活用して東京桑野会を盛上げて欲しいものである。

IT革命には一つの欠点がある。それは人間性の喪失とも言われるべきものである。コンピュータにハマっている若者の中にはEメールでのコミュニケーションは得意の巻だが、具体的に人間に接するとどうしていいかわからず、もじもじして動揺するケースが増えているらしい。IT革命は人間性喪失の危険性をはらんでいるのである。

人間の最大の危機は孤独になることである。人は文字通り人によって支えられているのであり、自分の回りに多くのコミュニティを持つ者ほど幸福ということになる。

東京桑野会の最大の行事は年一回5月に開催される総会並びに懇親会であるが、その意味合いは、IT時代になって益々大きくなってきていると思う。年に一回椿山荘のおいしい料理を頂き、飲み放題に酒を飲み交しながら「安積」に学んだお互いの縁を噛みしめつつ友と語らうことは正しく至福のひとつときということが出来る。参加するすべての人にとって楽しい会となるよう会員諸兄の協力をお願いしたい。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を次の通り開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2003年(平成15年)5月13日(火)
- 時 間 午後5時—受付開始
午後6時—総会
午後6時30分—懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. 役員改選の件
4. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1101)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生は年度会費込み 3,000円)
2003年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日ご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費 2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で4月30日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われまますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2002年5月24日に開催され、約200名の参加があり盛況でした。

母校便り

『安積高校新聞』第165、166、167号、本校編集“平成14年度特筆すべき行事”等、同紙提供資料による。

★男女共学化2年目。現2年生、男子263名、女子137名入学(女子割合34%)。現1年生、男子232名、女子168名入学(女子割合42%)。来年度(119期)からは1学級減り、40人9学級となる。募集定員360名。少子化に伴う処置。

★梅田秀男校長先生が退職に伴い安積高校を去られ、新校長として廣瀬渉先生が着任された。“良き伝統を継承しつつ、生徒が望むべき進路を実現できる学校にしていきたい”との談話が安積高校新聞第166号に掲載されていました。

★スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)に指定された。SSHとは理数系の科目に重点を置き、世界に通用する研究者や技術者を育てるカリキュラムを研究するとのプロジェクトであり、本年度は23都道府県の国公立高計23校を文部科学省が指定した。

1校あたり最大2500万円の破格の補助金が交付される(3年間)。安積高校は福島県唯一の指定校。初年度は福島大学、会津大学、日大工学部などと連携し、教授を招いての授業等を展開した。岩手大学学長 西沢潤一氏の講演「21世紀に生きる一創造する喜び」もその一環で行われた。

★第73回選抜高校野球大会出場記念屋内練習場が思索の森に建設された。30m×23m、高さ6.5mの大きさで、県内初の人工芝練習場。

★男女共学後初の紫旗祭が、9月6日～8日まで行われた。仮装行列も雨天

人が、季節が、集います。

味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラア

宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN-SO
椿山荘
03-3943-1101

決行で行われたとのこと。

★新城松倒れる。格闘技場の近くにあった、京大総長新城新蔵氏ゆかりの松が10月に襲った台風の影響で倒れてしまったそうです。

★部活動。剣道部男子団体、県大会優勝、茨城で行われたインターハイに出場。第55回全日本合唱コンクール全国大会、男性合唱金賞受賞。水泳部、将棋部がインターハイ出場。剣道女子団体、選抜優勝大会で創部2年目で優勝。3月に愛知県で開催される全国大会に出場予定。第31回全国高校新聞コンクールで、安積高校新聞が優秀賞を受賞。

★「オープンスクール」、「学校開放講座」（7講座を開講）等、外に向けた動きも活発化しています。

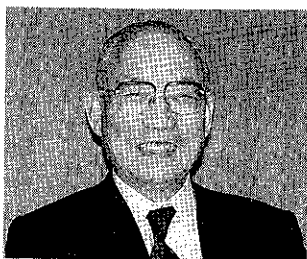
(85期、村上昌弘記)

澤田悌前会長逝去

20年近くにわたって東京桑野会の会長を務めていただきました澤田悌さんが、4月3日、肺炎のため亡くなりました。享年90歳でした。桑野会の「中興の祖」であった澤田さんに心より感謝申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

42期生として安積中学校を卒業した澤田さんは、旧制浦和高校文科乙類(独語)、東大法学部政治学科から日本銀行に入行。大蔵省(現財務省)出向などを経て、戦後の経済立て直しに取り組みました。世界を驚愕させた「奇跡の復興」は、澤田さんが、後に22代日銀総裁となる佐々木直氏とのコンビで為し遂げたものと言っても過言ではありませんでした。

その後、日銀理事から、国民金融公庫(現国民生活金融公庫)総裁、公正



在りし日の澤田前会長(短資協会にて)

取引委員会委員長、日本住宅公団(現都市基盤整備公団)総裁などを歴任。公団総裁としては、行革の魁とも言うべき都市整備公団との合併を実現させ、退任後は短資協会の理事長を務められました。

昭和60年4月には、福島県生まれの同窓生としては初めて、勲一等瑞宝章を受賞されました。

東京桑野会では、永戸政治氏(21期)、三澤敬義氏(26期)、壁谷祐之氏(31期)の後を受けて、昭和56年に会長にられました。そして、「桑野会会報」の第1号が澤田さんの第4代会長就任にあわせた形で57年4月に発刊されています。

常に年上の会員を敬し、後輩には寛い心が伝わってくる笑顔で接し、いつも傾きながら話を聞いて下さいました。東京桑野会は、世代や属する業界・業種・集団、思想の枠を超え、あるいはそれぞれに結束の絆を固めて広がる同心円をなしています。その中心には、ずっと澤田さんがいらっしやいました。

座右の銘である「分別の肝要は仁愛なり」を体現していた澤田さんでした。東京桑野会で澤田さんの聲に接することのできた幸せを今あらためてかみしめつつ、ご冥福を祈り、これからも桑野会を見守り続けていただくことをお願い申し上げたいと存じます。

ありがとうございました、澤田悌先輩。安らかにやすみ下さい。

会員動向

☆糠沢和夫氏(68期、元経団連専務理事)は外務省文化交流部長に就任されました。ハンガリー大使に続く民間からの外務省要職への就任です。

☆斉藤英彦氏(69期、本会副会長兼幹事長)はこのほど日本大学の理事という要職に就任されました。氏は同大学の校友会副会長と同法曹会会長も兼ねておられます。今後のますますのご活躍を祈ります。

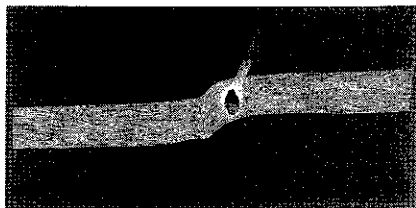
☆宗像紀夫氏(73期、高松高検検事長)は2003年2月14日付で名古屋高検検事長に栄転されました。益々のご活躍を祈ります。

☆椎野靖啓氏(78期、東京消防庁消防監)は赤坂消防署長から池袋消防署長に栄転されました。

☆根本 匠氏(82期、衆議院議員)は2002年10月2日付で内閣府副大臣兼総理大臣補佐官に就任されました。内閣の中核でのご活躍を期待します。

★門馬 晋氏(61期、多摩大学名誉教授、元読売新聞論説委員)は2002年12月1日、72歳で逝去されました。氏は1980年から90年まで読売新聞一面コラム「編集手帳」を執筆されました。本号にその在りし日のご健筆振りを偲んで一編を転用させて頂きました。ご冥福をお祈りします。

岩谷 徹 銅版画展



4月16日～29日(銀座・兜屋画廊) 詳しくは本誌P15に掲載

0120-821-110

トランクルーム

家財保管

転勤・改築・建替等

FAXでも受付しています

0120-856-110 <http://www.wns.co.jp/flower>



引越センター

本社 東京都府中市白糸台1-23-10

遠藤征志郎 (72期)

関自振第1782号

安積桑野会の近況

安積桑野会会長
石川 博之 (63期)

3月に入り、春めいてきましたが、東京桑野会の皆様にはお元気のことと存じます。開成山の近況をお知らせしたいと存じます。

ご心配おかけ致しました、室内練習場が校舎西側に完成し、本年2月5日落成式が行われ、引き渡しを受けました。この練習場は、生徒に親しまれてきた「思索の森」の一部を伐採しましたので、それに伴う環境整備として、植林に350万円を投じました。また、ラグビー部及び野球部が全国大会に出場した際の余剰金1000万円ずつを拠出し、大会や練習試合の移動に使う40人乗りの大型バスを購入し、部活動支援団体である、安積高桜桑会に寄付致しました。

母校は、来年、創立120周年の節目を迎えます。その第1回準備委員会が2月14日に開かれました。歴史を振り返り、未来へつなげる記念事業をこれから検討致しますが、いいアイデアがありましたら、教えて戴きたいと思えます。

さて、卒業式の前日である2月28日、表彰式に出席して参りました。私が一番感心したのは、93名も皆勤賞を受賞した生徒がいたことであり、サボリマンであった私には想像できなかったことであります。

私は、PTA、桜桑会、同窓会を代表致しまして、次のように一言激励の言葉を述べてきました。

「3年前、入学式に参列して諸君たちにお会いした時は、諸君たちは緊張している中に、まだあどけなさが若干残っていたと思います。しかし、本日

の表彰式に参列させていただきますと、諸君たちはたくましく成長しているのを感じます。

たくましく成長したのは、3年間に何度も壁にぶつかり、跳ね返されて、一度ならずも二度三度と自問自答し、自分内会議を開いて悩み、また吉川英治の宮本武蔵の中に出てくる言葉を借りれば、諸君たちはお互いが砥石になって磨きあってきたからだと思えます。

諸君らがお互いに磨きあってハードルを越えてくる過程で得たものは、勉強であろうと、部活であろうと、生徒活動であろうと全て同じであります。そしてそれは、ハードルを越えたもののみが汲める青春の喜びであり、それは、また、諸君の青春に一段と奥行きと彫りを深く刻んだことと思えます。

本日、受賞した諸君らの努力には、まず敬意を表します。私の安積の6年間を重ねますと、私には全く縁がなく、遠い遠い峰でありましたから、本日受賞した諸君らは本当にすばらしく、その努力に対し、こころから敬意を表します。しかし、もらえなかった方々も、追い越すことは容易であります。私の安積の友人には、追い越した友人が何人もおります。そして、追い越されないようにすること、これは容易なことではありません。ですから、これからも、益々の安積の同期生がお互いに砥石になって磨きあってゆくことを念じて、激励の言葉と致します。」

近況をお知らせして、挨拶と致します。

安積に学ぶ俊英たち

安積高等学校長
廣瀬 渉

冬の澄んだ青空の下、思索の森の松の木は聳えています。夏の頃はその森より、心地よい郭公の鳴き声が聞こえていました。今、その一角には、現在建設中の屋内練習場を垣間見ることが出来ます。

昨年度、課題であった屋内練習場の建設につきましては、9月に開かれた桑野会総会において了承が得られ、工事が開始され、平成15年1月中には完成いたします。その後、残された思索の森は、より良い環境にするために、整備工事を行う予定です。3月には工事も終了することになりますので、機会がございましたら、是非、本校にお出でいただければ幸いです。

環境整備を行いつつあるこの安積野において、生徒達はそれぞれの目標に向かって取り組んでおります。昨年は、男子合唱部としては、本校初の全国大会金賞受賞をはじめ、剣道部男子団体の県大会優勝、そして全国大会出場など、各部が活躍いたしました。118期紫旗祭も開催され、仮装行列や大進撃も行われ、大変盛り上がりました。部活動につきましては、屋内練習場が完成し、練習環境もより良くなりますので、各部の更なる活躍も期待されます。また、野球部も甲子園を目指し、更に一層邁進してくれるものと楽しみにしております。

現在3年生の116期は男子のみの最後の学年です。来週にセンター試験が実施されますが、進路面でも大いなる成果をあげてくれるものと期待しております。

平成15年4月には、119期が入学し、

鞍手茶屋

東京で福島のけんちんともちを!!

——昼はそば、夜は酒と肴——

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F 電話 03-3581-7066

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 電話 03-3213-2385

中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 電話 0249-84-3774

(店主) 上野富衛 (78期)

本校における男女共学が完成します。男女共学になり、学力面でも更に向上しており、お互いに切磋琢磨し、本校における3年間の中で、未来の活躍のために人間性を高め、大きな基盤を培ってほしいと願っています。現在の2年生は女子が136名(34.0%)、1年生は女子が168名(42.0%)です。平成15年度入学の119期生からは、9クラス(360名定員)となります。男女共学になって活性化され、更に良くなってきたと評価される安積を目指していきたいと思えます。

本校は平成13年4月から男女共学になりましたが、それを機会に制服を廃止し、現在に至っています。“学びの場にふさわしい服装”を自主決定することになっています。平成14年12月17日の安積高校新聞の論説には“時と場合に応じた服装を自分で考え選ぶのも自主管理のうちなのだ。高校生である私たちは、あらゆる面で自主管理の能力を求められていると言える。…互いに利害ばかりが強調されがちになっている現代社会において、本当の意味での「快いらし」を得るために、マナーを当然のごとく守れることで、私たちは一段高い「自主・自律」に近づけるのではないか。”とある。

安高生として高い誇りと自覚を持つ、安積に学ぶすばらしい俊英たちの大きな成長を願いながら、先生方と共に取り組んでまいります。今後とも母校と後輩への一層の御支援をお願い申し上げます。日頃からのご高配に御礼申し上げます。東京桑野会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

(平成15年1月記)

竹花栄明先生を偲ぶ

川井 栄一郎 (65期)

私が初めて先生の授業を受けたのは日本史だった。戦後で皇国史観が大きく変わる中での授業は、海軍人であった先生にとっては、さぞかし大変だったろうと思量される。

叩きつけるような黒板の音が今でも懐かしく思い出される。

高3の時は私の組担任だった。当時は、現在のような大学入試統一試験とは異なり、進学適性検査があったが、先生には、毎昼休みに進適の豆テストをしていただいた。

先生の愛称であるドライマンは、戦後の従来の価値基準が崩壊する中であって、「まちのアンチャンになってはいけない」「ドライマン(無味乾燥な人間)、それはいけない」が口癖だったところから、私達65期がつけたものである。

卒業後の東京の同期会に、ここ十数年連続してご来駕いただいた。また、同期会の記念写真を地元の福島民友新聞すなっぷショット欄にも寄稿していただいた。

還暦を過ぎたある同期会では「三つ(手まめに、足まめに、こまめに)」が長寿の秘訣と挨拶された。幾つになっても、恩師は有り難いものである。

昨年は、卒業50周年、古希を迎える同期会であったため、早くから先生のご来駕をお願いし、ご快諾をえておりましたが、7月12日に急逝されました。

7月14日に郡山開成山平安閣で行われました告別式には、同期会として弔電、生花を供え、参列して献花してまいりましたが、参列者は安積一色で、

校歌、応援歌(紫の旗行く所)を歌って準学校葬のように先生をお送りしました。

永年にわたり私たちを見守り続けていただいた先生にはもつともつと長生きしていただきたかったのですが、誠に残念でなりません。

最後に先生の発句をご紹介します。

「理知の子ら

いずこに在すや 秋の暮れ」

先生のご冥福を心からお祈りいたします。 合掌

(東京桑野会 会計監査)

ドライマン

村田 英男 (75期)

▶私達にとっての安積最後の名物教師竹花栄明先生(48期)が亡くなった。師の三男厚君の話では『三月末に足を骨折しました。そちらは快方に向かっていたのですが、十日ほど前に急に両足がむくんできて、病院に入院しました。それから1週間で亡くなりました。私も入院の知らせを五十嵐力(88期)から聞いたがその情報を無にせずまない。

▶通夜の席で参列者を前に鈴木務広妙法寺住職は法話をする。『私は安積75期卒の鈴木です。竹花先生の葬儀を執り行う事が出来るのは決して偶然ではありません。私は昭和44年僧籍に入りましたが、先生が教え子だからと菩提寺に決めて下さったからです。その私の最初の葬儀は先生の母でした。ですから今日は特別に心をこめて話をさせていただきます。慈教院安隠日榮居士と戒名を付けさせて頂きました。慈しみ教える。仏教の經典からの安隠の中に安

小型鋼船建造並に修理

廃水処理設備、環境衛生設備



京浜ドック株式会社

取締役社長 大内博文 (71期)

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町1-2-2 電話 (045) 461-6834 (代表)

積の安の一字、日榮の中に名前から一字入れさせて頂きました』。

▶教師竹花の魅力は自分の目線を生徒にまで下げる。だからこちらも先生と意識せずなんでも話す。仲村哲郎(66期)元安高教師葬儀委員長も言う。『竹花さんは9回、卒業生を出しています。わたしら同窓会に招かれると教師同上でむれる事が多いけど、竹花さんは楽しそうに生徒の輪の中に入っていったもんだよ』と。

▶卒業生の選挙事務所には必ず顔を出した。中でも根本匠衆議院議員(82期)からの宛名は彼が書いたあの独特の文字だった事に妙に安心した。

▶私は安積に四年間世話になった。時の津口信男校長は学校の東隅の物置を浪人生の教室に提供、多くの教師が補修を受け持った。その浪人生の担任が竹花先生である事は今考えるとじつに見事な人選であった。悩み多きウェルテル受験生の相談相手、愚痴の掃溜め(失礼)になったからでる。

▶昨年春は男子校最後の土壇場での甲子園出場だった。私はバス60台を連ねる夜行応援バスで行く事にした。なん

と私の乗ったその車両に先輩がひょっこり一人でやって来た。「一緒に連れてってくれねがい」八十も過ぎたというのに往復夜行バスで。

▶よりによって私に同行を求められた事が何より嬉しかった。サービスエリアで会うたびに卒業生がご挨拶。私達は水戸黄門の助さん角さん状態。『どうだ、俺がお供をしてるんだぞう』だった。

▶甲子園では新聞記者が待っていた。私は持っていた安積の桜マークの写し絵を先生のほっぺたに貼った。かくして桜の校章入りの顔写真はインタビュー記事とともに全国紙の社会面を飾った。

▶さようなら人一倍ウェットなドライマン。

「葉書きの同窓会」より
(磐梯熱海、紅葉館主)

竹花先生 追悼文

根本 匠 (82期)

安積高校の伝統を脈々と受け継いできた応援団が、後継者難から解散の危機に瀕したことがありました。私が二年生の時です。

当時、私は生徒会の役員としてほかの役員たちと応援団の存続に奔走、二年生の有志が「オレがやる」と手を挙げてくれ、解散を免れることができました。その際、応援団の顧問として毎日のように生徒会室を訪れ、私たちの相談に乗って下さったのが竹花栄明先生です。

竹花先生は、名物教師の故柳沼弥重先生をはじめ多くの先生方とともに応援団の行く末を心配されていただけに、存続が決まった時の喜びようは今

もはっきりと脳裏に焼き付いています。

先生との思い出には、こんなこともありました。大学に入ってからのことですが、福島で行われる野球部の試合を応援しようと郡山駅まで行ったところ、竹花先生率いる安高の応援団一行と出会い、「一緒に行かないか」とお誘いを受けたのです。

先生からそう言われれば、否も応もありません。ご一緒させていただきましたが、応援団と一緒にだったお陰で団体割引で福島まで行くことができました。

竹花先生は、私の担任ではありませんでした。二年生の時に世界史を教えていただいたほか、前述のように生徒会活動など様々な面でお世話になりました。

建設省に入省後はお会いする機会が少なくなりましたが、先生の弟さんが東京桑野会のお世話をなさっておられた関係から、先生の消息はうかがっておりました。

その後、建設省を辞め、衆議院選挙に出馬する際にも、竹花先生には言葉で言い尽くせないほど助けていただきました。

「地盤」も「看板」も、もちろん「カバン」もない徒手空拳の私にとって、安高の先輩、後輩は最も大切な支持基盤です。竹花先生のご自宅にもお願いに参上しました。

「次の衆議院選挙に出馬します。先生、私をよろしくお願いします」

今でもはっきり覚えてますが、先生は「分かった」と仰有る前に、困ったなという表情をされたのです。

しかし、教え子同士が政治的に難しい状況下で、竹花先生は最終的に私の支持に回っていただきました。そして、私の事務所にも毎日のように顔を出し、先生の教え子の皆さんとともに

ほっぺたに安積のシンボルマークのシールをつけ、声を送る竹花栄明さん。阪神甲子園球場で



彩色用ゴム製品で世界のトップを行く

工業用精密ゴム製品製造

株式会社 朝日ラバー

- ◇創業 1970年
- ◇資本金 4億7935万円
- ◇株式会社頭登録
- ◇ISO9001 認証取得
- ◇ISO14001 認証取得

本社 〒330-0801 埼玉県大宮市土手町2丁目7番2号 tel.048-650-6051 (代表) Fax.048-650-5201 社長 伊藤 巖 (65期)
大阪営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 tel.06-930-2521
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493

事務を手伝って下さったのです。

「おめでとう」

毎年、結婚記念日の直前に、先生からお祝いの手紙を頂戴しておりましたが、昨年の6月に手紙を頂いた直後に倒れられ、帰らぬ人となりました。

常に体の鍛練と頭の体操に努めておられた竹花先生の、突然の訃報に驚いたのは私だけではないと思います。「お元気だとうかがっていたのに」と、半信半疑の思いで弔辞を読み上げたことを記憶しております。

竹花先生、長い間ほんとうにありがとうございました。

(衆議院議員、
内閣府副大臣兼総理大臣補佐官)

心の故郷 竹花先生

大矢 真弘 (88期)

担任から「私の名前は竹花といいいます。竹は英語でバンブウといい、竹の花は50年に1度しか咲かないんだない。」という自己紹介を聞き、「そうか竹の花って見たことないけど、50年に一度しか咲かないのかあ…すごいなあ…」と思った昭和47年4月の入学式。

授業の合図の鐘よりも早く教室の前で待ち、鐘と同時に始まる授業。むずかしい単語も特有のイントネーションで読むため、妙に覚えてしまった世界史。元号との併用でなく西暦にすれば良いのにも言っていましたね。

出席簿と教科書を小脇に抱え、前傾姿勢でとつとと歩き、卒業生にもらったという頑丈そうな自転車がマイカーだった先生。

応援団の顧問として合宿中の宴会の時も、わざと自らメガネをはずし区別をつけられなくして「タメ！ タメ！

ホタルを飛ばしてはダメ！」とOBだけ、それもタバコだけを注意しにきた先生。あの時の先輩達の安高七不思議や春歌はおもしろく、その文化を伝えきれなかった自分に反省。先生は学内でも応援団を守ってくれていたんだろかなあと感謝。

竹花先生が現代の高校教師だったら……。

担任・応援団の顧問として3年間お世話になり、早稲田大学への推薦入学も東京での住いになった椿山荘と田中角栄邸の間にある「和敬塾」を紹介してくれたのも先生。

安高の思い出は先生の思い出。40代後半になり懐かしく、無性に戻りたくなる時代、それは先生と過ごした安高時代。

赤木の自宅では、自分でつまみを用意し、ビールと日本酒も用意してくれました。焼き鳥屋にも行きました。毎年の年賀状でも励まされました。

結婚式の祝辞、昭和60年3月10日「青函トンネル貫通の日です。」の一言で爆笑でした。それから毎年、結婚記念日に届くはがき、妻と子どもの名前・生年月日が記され心新たになりました。

クラスでやった先生の喜寿のお祝い、元気に赤胴鈴ノ介を歌ってくれました。

故郷とは変わらずに待っていてくれるもの、両親・友人・郡山の街並そして安積高校・竹花先生。

私は故郷をひとつ亡くしました。でも、心の中に故郷がひとつ生まれました。日々の仕事も先生のまねをして時間前にやっています。50年に一度の花を見たいから。

(早稲田実業学校初等部 事務室課長)

眼で聴く、耳で視る

門馬 晋 (61期)

(1981.10.25 門馬晋著『編集手帳』抄より)

ぼくのうちの くろぶたが／子ぶたを うむ／あしたうむと／おとうさんと おかあさんが／いつている あしたは ぼくのたんじょうびだ／ぼくやんなっちゃうなあ

東京の小学二年生の「くろぶた」という詩だ。福島県の五年生にはこんな詩がある。先生にしかられた／あまり悲しくて うつむいて泣いていた／ちらっと先生を見たら／目があってしまった／先生は あわてて目をそらし／せきの一つ／“ゴホン”／やはり私の先生だ（「先生」）

選者は、佐藤浩氏。佐藤さんが、子供たちの作品を見初めてからもう二十六年になる。毎月、全国の小、中学生から送られてくる千点近くの「作品一編一編との対話」が、私の生活の大切なリズムになっている」という。主宰している雑誌「青い窓」は、今月、二百八十二号を数えた。佐藤さんは「目聴耳視」という言葉がお好きなようだ。〈目で見たら作文です。目で聞いたら、それはりっぱな詩だ〉。子供たちには「声が聞こえてくるまで（対象を見つめよう）」と教えているという。

戦争中佐藤さんは地元郡山市（福島）に近い小学校で教鞭をとっていた。担任の四年生の詩に出会って、感動した。四十六冊のノートを一人一人に配って、思っていることを自由に書かせた。多感な青年だった。やがて敗戦。戦争に反対できなかった自分を責めて辞職する。

実は、佐藤さんは、全盲の詩人だ。二十五の時に失明して三十数年——が子供たちの澄んだ目がある。「青い窓」は、佐藤さんの「心の窓」でもある。



選り抜かれた素材と確かな技術が生み出す逸品
品質と食の安全性を追い求める

精肉・そうざい・ハム・ソーセージの製造販売

株式会社 **タカギフーズ**

店舗網：関東地区 27 店（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県
茨城県 他 静岡県）

〒251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4
クゲヌマファースト 4F
TEL 0466-26-2506 fax 0466-22-3977
常務取締役 近内 靖夫(69期)

東京桑野会の ホームページができました!

ホームページ委員会

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

2003年(平成15年)3月1日(土)

グランドオープン!!

アクセスしよう、こちらまで

東京桑野会の会員の皆様、お待たせしました。毎年予算計上していたにもかかわらず何もできず時間だけ経過しておりましたが、計画からなんと丸4年、やっと東京桑野会のホームページがグランドオープンしました。今すぐアクセスして下さい。まだ初期計画の80%くらいの出来ですが、けっこう動きます。名づけて「東京桑野会ホームページ Ver.1.00」。今回会報の紙面をお借りしまして、簡単に紹介させて戴きます。

首都圏在勤・在住に係わらず、全国と同窓生や在校生の皆さんに開放しておりますのでご利用下さい。

ホームページの構成・機能

現在公開中のホームページの構成と機能についてご説明します。

まずアクセスするとオープニングの頁が開きます。母校合唱部による校歌・応援歌を聞きながら、旧本館の四季折々の写真をスライドで見ることができます。次に進むと、ご覧のようなTOP頁メニュー画面が出ます。(図-1 参照)

紫の帯は、東京桑野会の紫旗をイメージし安中・安高の校章を中央に配置しました。機能ボタンは3つで、その他に「What's New」のニュースを見る機能を付加しています。東京桑野会の頁は、文字通り東京桑野会自身の沿革・会則・役員名簿と古川会長のご挨拶を掲載しました。会報や年総会等の行事・決算報告なども確認できます。年に1度の更新をかけていきます。

堅い話はいやだという会員の方は、二番目の会員親睦の頁をご利用下さい。会員皆様の親睦のためにいろいろ

工夫しました。まだまだ完成という訳ではありませんので、今後も改善していきたいと思えます。皆様のご意見、ご希望をどんどんお寄せ下さい。新ネタが集ってくる頁にしたいと思えます。

三番目のボタンは、桑野会からのお知らせとホームページ委員会の頁になっています。ホームページ利用上の注意事項もここに書いてあります。必要に応じて連絡事項等を掲示しますので、時々見て下さい。

中央より下(写真の下)部分には、母校安積高校ホームページへのリンクボタンと郡山本部の安積桑野会ホームページへのリンクボタンがあります。安積桑野会のボタンの右に3つのリンクボタンがありますが、それぞれ安積歴史博物館の頁/会員登録・変更の頁/安積桑野会掲示板へつながっています。ご利用下さい。このリンクは東京桑野会の外に出ますので、別ウィンドウで開きます。リンク先では、それぞれのサイト管理者に従ってご利用下さい。

壁紙を良く見て下さい。うっすらとですが、安中・安高の校章を貼っております。

会員親睦の頁について

会員親睦の頁について少し詳しく説明します。会員親睦の頁のメニュー画面をご覧ください。(図-2 参照)

掲載内容の異なる掲示板を4種類準備しました。4種類とも完全オープン形式ですので、どなたでも閲覧・掲示(記入)することができます。少しずつ使い方が違いますので、初めてお使いになる方は右端の説明を読むボタンを押して下さい。

最初の掲示板は、「求む安積の情報

／あげる安積の情報」と題しまして、広く情報を募りまた意見を交換する場としました。在校生への問いかけで「今〇〇部はどんな活動をしているの?」とか、同窓生向けに「〇〇期△△年卒の□□君の消息を捜しています。」とか、逆に安積の情報を「こんなことがありました…」と報告して頂いても結構です。2番目の掲示板は社会人・OB向けの会員相談室です。3番目の掲示板は学生向け(在校生を含む)の相談室で、進学や就職等を諸先輩に相談する頁です。どちらも無回答とならないよう、ホームページ委員会側で一次回答者を準備させて頂きます。これに基づき、回答の環が広がっていければ良いと考えます。

4番目の掲示板は、文字通り先輩・後輩・同級生とおおいに語り合い/遊ぼうを目的に、インターネットを越えて集って頂ければ最高だと思います。これら4種類のジャンルに留まらず、自由に書いてもらえれば結構です。一番下に、安積関連リンク集のボタンを付けました。リンク集の頁に飛んでいきます。まだリンクの数が少ないですが、ご希望があれば事務局までご連絡下さい。

会員親睦の頁は、今後もコンテンツを見直しながら充実させていきたいと考えています。一昨年女子生徒が入学し、東京桑野会にも来年は女子会員が誕生することになります。女性向けのコンテンツも必要になってくるでしょう。そう考えると楽しみがたくさんあるようで、なんだかウキウキ・ワクワクしてきませんか。

安積桑野会本部とは別のホームページ

安積桑野会は全国の同窓会の総本山といったところです。東京桑野会は首都圏在勤・在住者のための同窓会で独立した機構となっており、当ホームページも完全に独立して設置・運営されています。

そのため当ホームページの主旨も本部のものとは違ったカラーを出そうと思っています。いくつか下記しますが、当然会員の皆様で作るということが大前提であり、運営には会員の皆様のご意見を取り入れていきたいと考えています。

基本的には東京桑野会のホームペー

ジであり、すなわち首都圏同窓生のために設定されている点。母校行事や母校に関するニュースは、基本的には本部の安積桑野会のホームページで優先掲載して戴く考えである点。会員間の親睦のために、同級生・同窓生の相互の連絡に使用して頂きたい。そのため、親睦の頁に4種類の掲示板を準備した点です。会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

おわりに

東京桑野会のホームページは会員の皆様で作るページです。安積という共通の土壌で育ち共有の質実剛健の精神を持つ同窓生の仲間が、年齢や経歴を越えて連絡し合い親睦を深めさらに強い絆で結びついていくための道具のひとつとして、このホームページが少しでもお役に立てれば幸いです。かわいがってあげて下さい。よろしく願い致します。

最後に本ホームページ作製にご協力頂きました、斉藤幹事長を始めとする開設準備委員会各委員にはたいへんご苦勞をおかけしました。厚く御礼申し上げます。また、引き続きホームページの運営管理委員に移行しておりますがボランティアにもかかわらずご面倒をおかけします。ホームページ運営におきましてもまだまだご苦勞をおかけしますが、今後ともよろしく願いします。

(2003.1.14 Tue.)

**東京桑野会の
ホームページができるまで**
芳賀 雅美 (86期)

作製は目白の居酒屋から始まった

昨年5月24日(金)の東京桑野会総会の後、筆者の同級生(86期理数科)8名は、ながれで目白駅近くの居酒屋二階座敷に席を移しました。特別に示し合わせた訳でもないのに、あとから斉藤幹事長・櫻井副幹事長をはじめとする幹部の方々が一〇〇期以降を含む超若手を数名引き連れ、何と同じ店に来たのです。彼らはまとまった席が取れず、一階と二階に別れて櫻井副幹事長が若手を引き連れ二階座敷に上がってきたところ、我々を見つけ合流することになってしまったのです。

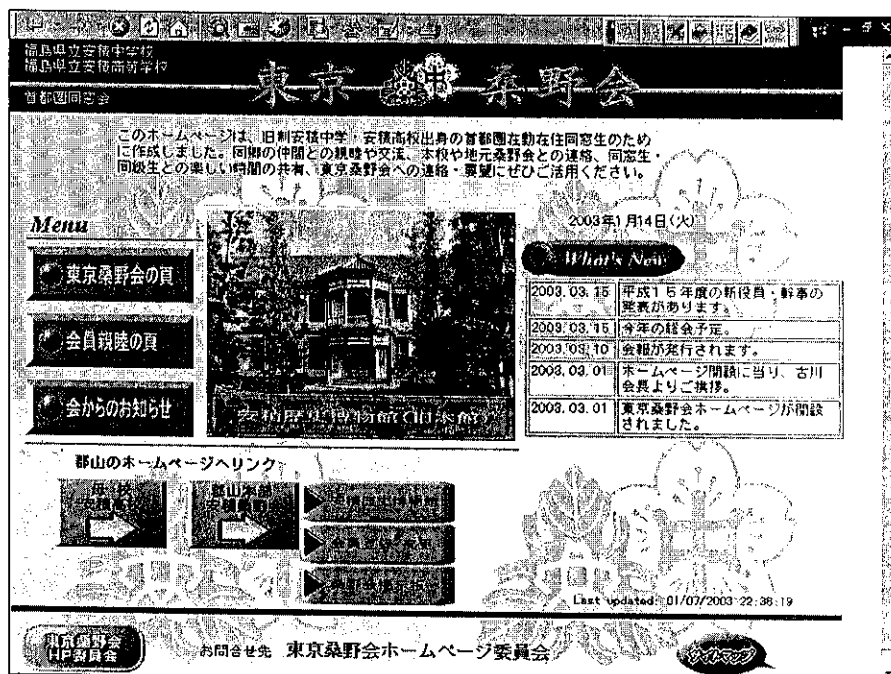


図-1 ホームページTOPメニュー画面

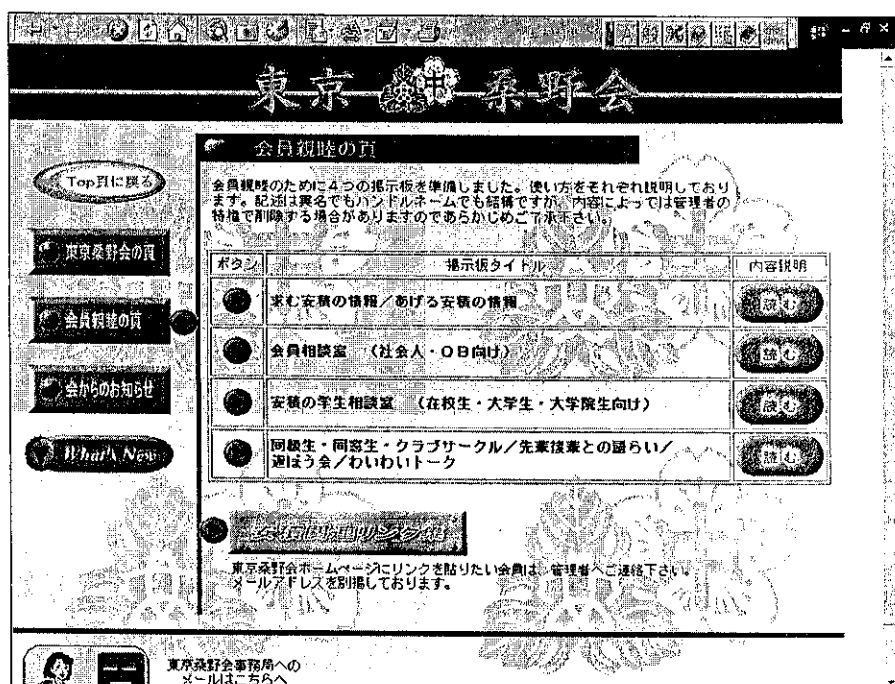


図-2 会員親睦の頁メニュー画面

そうです。超若手も参加したこの2時間程の二次会から、ホームページ作成が始まったのです。毎年予算計上しているのになぜできないの？ それでは安積を愛する我々で作っちゃえということで、ささやかな居酒屋の席で開設活動が宣言されました。

最初は楽しく和気あいあいと

7月31日の第一回委員会は結団式の様相が強く、まだホームページ作成の困難さが全く見えない中で、公開時期

だけ2003年3月1日に決めました。しかしながら9月6日の第二回委員会からは、実際のホームページをイメージしながら完成までにやるべき項目を上げていったのですが、とたんに壁。おい、これ自分達で全部仕上げるの？ ととてもじゃないけどできないぜ。だけど作製を外部に頼んだら、100万円くらいすぐかかっちゃうよ。外注予算なんてあるの？

櫻井副幹事長の「よし、みんなで手作りしよう」の言。決断が下されまし

た。

全部自分達の手づくり

ホームページ作成というもの、プログラムを組むのは最後の仕事。もっと重要なことは、シナリオ作成とコンテンツ選びです。こればかりは、外注もできません。

次は各ページのデザインと機能ですが、会員にウェブデザイナーはいないかなど、捜しましたがうまく見つかりません。

手探り状態の中、11月7日の第四回委員会でシナリオとコンテンツが決まり、初回公開時のサイトマップを完成させました。引き続きページの作成に入り、心臓部の会員親睦の頁を除いて、11月15日の夜には最初のプロトタイプを関係者に公開したのです。それなりに自信作でした。

会員親睦の頁の作成は困難でした。いかに興味を持って参加してもらうかというシナリオ策定をネット投稿ベテランの渡部君(91期)、CGIプログラムは最も若い稲垣君(106期)に頑張ってもらいました。

本格的にプログラムが始まったのは年明けでした。もちろん資料や写真の収集とデジタル化、原稿のワープロ化、プログラムの修正、作動確認といった裏方の細々とした仕事も手分けし、皆様昼間の本職の合間を縫いながら全くのボランティアで黙々と作業をして頂いたのがとても良かったのです。

ここで、まだ名前を出していない準備委員のメンバーを紹介しておきます。坂本先生(86期)、富山君(91期)、開発・検証用のサーバを無償提供してくれた西田君(91期)、IT技術力抜群の川前君(102期)、雑用にもいやな顔せずこまめに働いてくれたみんなありがとう。もちろんコンピュータなんて判らないと言いつつ、全体をまとめて頂いた斉藤幹事長と若手を引っ張って頂いた櫻井先輩にもたいへんお世話になりました。

グランドオープンまでたどり着きました。が会員の皆様、未熟な点は訂正し、不満な点は是正し、育てていって下さい。

(東京桑野会ホームページ委員会委員長 出光石油化学(株))

インターネットで 安積

渡部 良朋 (91期)

東京桑野会HPが開設されたのを記念して、「インターネットで安積」をちょっと解説してみつかない(開設と解説をかけることなんて、面白い←どこが!)。2001年1月31日深夜、私はインターネットで「安積高校」が関連するサイトを必死になって検索したの(語尾は郡山弁です、念のため)。それは、選抜甲子園の21世紀枠で、安高の悲願の甲子園出場が決まったことを知ったから、です。この時から、私の「インターネットで安積」が始まったの(ない)。

サイト検索の結果、「電脳紫旗」のHPが引っかけ、それにリンクしてあった「安積 甲子園への道」のHPにたどりついたの(ない)。このHPはコンテンツが充実しており、中でも「みんなの応援、情報掲示板」は、かなり人が見えます。安積関連HPの「老舗」ともいう存在で、通称「紫掲示板」つつうの(ない)。私も、「甲子園出場」前後までは、ROM(Read Only Member)していたが、様々な話題があがる掲示板の面白さに我慢しきれなくなって、書き込みを行うようになったの(ない)。紫掲示板にアクセスする安積関係者は多く、リンクも張られています。それを辿ったりして、多くの「インターネットお友達」が出来たの(ない)。

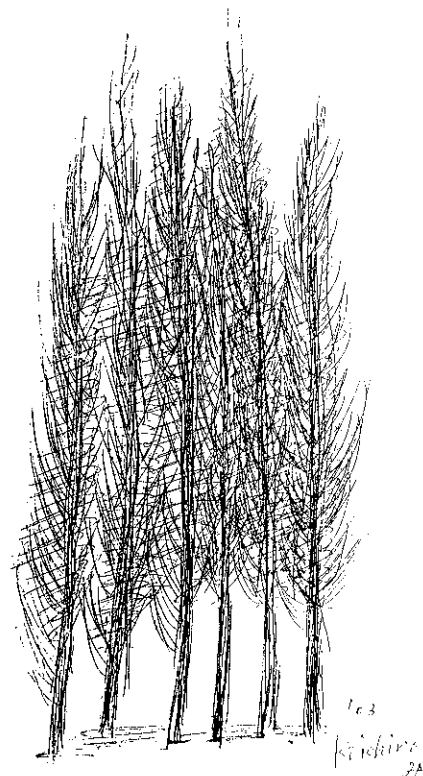
安積にとって、「校歌」と「応援歌」は宝。んだばい!(強く、うなずく)。甲子園での大応援に参加した後に、自宅に戻ってからビデオを見たの(ない)。びつくりしたの(ない)。素晴らしい応援だった。5回の攻撃の時なんか、本当に鳥肌がたつくらいにスバラしかった。この大応援は、歴代応援団幹部の方々の力に依ることが多かったですね。そこで、紫掲示板、なの(ない)。応援団幹部OBの方が、何名も常連でいらっしゃる。その方たちが中心となつてのOFF会(インターネットを離れての飲み会だから“OFF会”)が定期的を開かれ、それは「25日会」と呼ばれています。そう、2001年3月25日を記念しての(ない)。その会に何度か参加させてもらったの(ない)。面白えぞ

い、皆さんも来てみっせ!

応援団幹部OB会の名称は「紫魂会」と言うそうです。その紫魂会メンバーが遊んでいるヒ・ミ・ツの掲示板があんのない(紫魂会の、非公認HPだそうです、笑)。わらしも交えてもらって、遊んでもらってマス。やっぱ、安積の伝統を創ってこられた面々である、深い、深すぎる…。書込みの内容は、真面目なところでは「安積の応援を考える」ものやら、楽しいところでは「ぼっこわれオヤジたちの言葉遊び」などなど。んっ、言葉遊び? とてもじゃないけど、ここでは書けません…。同じく部外者ながら交えてもらっている91期同期の村木修君(91期生徒会長、現公立藤田病院泌尿器科長)が、自分のことを言ったHN(ハンドルネーム)など、うっ、とても書けない、搔けなかつたら「しゅじい」ではありませーん(注;この意味が分かるのは、地球上には、その「ヒミツの掲示板」の住民しかおられません)。

東京桑野会HPも出来たぞい、んだばい、安積を想う皆様、遊びにきつせ!

(財)電力中央研究所
生物科学部 上席研究員)



画:宮本興一郎(71期)

たばこ事情今昔

山本 佳 (58期)

大晦日に自宅の屋上でお別れ煙草をゆっくり味わいながら、立てつづけに二本ほど深々と吸い込んだ。上野寛永寺の除夜の鐘が聞こえてくると同時にプツリと煙草と縁を切った。あれは昭和四十八年の元旦だからもう三十年前の話である。以来一本も吸わない。

旧制中学二年の時、友人から「これを吸うと大人の仲間入りが出来る」と鵬翼という巻煙草を差し出された。怖怖と一服吸い込んだ途端に地球が急にグラツキ出し目が廻って野原の上にひっくり返ってしまった。私はどちらかというトポーとした少年だったが、早熟なその友人から学校をサボろうと誘われ郡女が真下に見える裏山の草原での出来事だった。

歯科の学校に入って死体解剖のあとの煙草はホルマリン臭を消す意味でも忘れられない味だった。

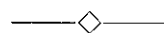
戦後間もない昭和二十年代の初めは、一箱の煙草を買うため煙草屋の前に行列したり、「モク拾い」という言葉があったほど物資のない時代で、一本の煙草を友人間で廻しのみしたりした。回顧すると、この頃から以降二十年間位はタバコ全盛時代だった様に思われる。期せずして映画も全盛時代で、喫煙のポーズが雰囲気作りと間

(ま)に利用された。ジャン・ギャバンなどはボス役でラストシーンでタバコをくわえて死んでゆく場面が何度かあったし、ローレン・バコールやキャサリン・ヘップバーンらの妖婦型の挑発的な肢体と、その美貌にまつわりつく紫煙は男心を揺さぶった。幅の広いベルトをつけた西部劇のガンマンが靴や壁でマッチをこすってタバコに火をつける仕草もナウイ感じだった。世間一般にタバコが大らかに容認された時代だった。

私自身の事に話が戻るが、青年時代は柔道に明け暮れていたのが国体予選や対県試合の前など一ヶ月ほどは断続的に禁酒禁煙を繰り返していた。病院に勤務し長女のお産で家内が里帰りした際、麻雀を覚えてからは節制に歯止めがかからなくなった。病院の宿直医

や薬剤師、レントゲン技師らと毎晩深夜勤務の度に泊り込みで麻雀を打ち続け、リーチをかけるたび煙草の本数が増え指先が黄色くなり微かに臭った。患者さんも指が臭くてさぞ不快だったろうと今考えて耳赤の想いである。自動販売機など無い時代だから買いおきも必要だったし、自宅の部屋の鴨居にピースの空罐が並んだ。「貴方はタバコが止められる」という本を読んだり何度か節煙や禁煙に挑戦してみたが毎回不成功裡に終わっていた。開業してもその状態は長い間続いた。「酒も飲まずタバコも吸わず百まで生きた馬鹿がいる」という言葉にも負けた。意志薄弱を絵に描いた様に酒とタバコの暴飲が続いた三十年前、元南海監督の鶴岡さんの様にある朝、急に声が嘎れてきた。そのうち深夜に口蓋垂や喉頭部の奥がシンシンと痛んできた。「喉頭ガンは嫌だな」と不安に脅えたのが禁煙に成功した一番の動機である。「アメリカのドクターの喫煙者は殆ど居ない」という情報も大きな支えになった。禁煙一週間は無気力で放心状態、手持ち無沙汰と口淋しきで、仕方なく薄造りの小さ煎餅を用意しポリポリ…カリカリ齧っていた。寢床の中まで煎餅を持ちこむ始末で何とも侘しく心の中をシュルシュルと風が吹いている様だった。家族も随分気を使ってくれた。私はイライラする神経に我慢に我慢を重ねて十日位経過した頃、両足の裏からタバコの気がスーッと煙の様に出ていく快感を覚えた。何とも良い気持ちでその状態が3日も4日も続き足の裏が軽くなった。中国ハリや灸に精通している友人が足の裏にも湧泉というツボがあると話していたが、あのスーッと煙の様に出て行く快感は臓器の休息と恢復の証左だったのであろうか。なんとも不思議な体験だった。マッチやライターも要らなくなり急に洋服のポケットが清潔になり身軽になった。酒を飲んで自制心の緩んだ時、タバコの誘惑が一番きつかったが、一ヶ月経過したら記録を破るのが惜しくなった。「お父さんの意志がそんなに強いと思わなかった」と娘や女房から珍しく褒められた。半年ほどでジョギングしても息切れが少なくなり食物がおいしくなって体重が3kg増えた。五年間ぐらいは喫煙する夢をよく見た。夢の

中で深々とタバコを吸っている。香りや味まで判る。夜中にハット月覚めて吸わないで良かったと胸を撫でおろした事が何回もあった。



25年ほど前に嫌煙権という新語が生まれ、健康や環境に及ぼすことが社会問題となってきた。他人のたばこの煙を吸ってしまう「受動喫煙」の被害対策が真剣に検討され、キャンペーンも広がっている。たばこ事情の変化を考えると「隔世の感」がある。

健康は個人の努力だけでは実現出来ず環境改善が不可欠(1986年)と世界保健機関(WHO)が提唱した考え方が「健康日本21」として芽吹いている。

千代田区の歩きたばこ禁止条例の施行、学校は和歌山県が02年4月、仙台市と宇都宮市が03年度中に、公立小中学校などで敷地内全面禁煙を実施した。

日医坪井栄孝会長は中国の格言を引用し「先づ腕より始めよ」で平成13年7月から日本医師会館全館禁煙とした。日医会員15万7千人の喫煙者率27%は米国などに比べて際立って高いことに恥じらひの表情を見せた。

日本看護協会と協調して禁煙キャンペーンを展開している。

先生は須賀川市の中学校全校生徒に「たばこの害」について啓蒙講演を30年間続け成果を挙げている。私も学校保健や地域社会で、ささやかな禁煙運動を続けている。

厚生労働省99年の推計によると、日本の禁煙率、たばこ消費量は世界のトップクラス。

年間10万人が早死し、肺がん、心臓症などにかかる医療費は国民医療費の5%を占めると発表している。

肺がんは自覚症状が出た時は手遅れの症例が多いが、患者は増え続けている。

受動喫煙による健康被害への対策を進めるためにも分煙徹底、出来れば安積魂の質実剛健の精神で禁煙をお薦めする。

(歯科医)

学徒動員の思い出

入部 和男 (60期)

昭和19年に入り、大東亜戦争は次第に激烈となり、米軍の本土空襲が頻繁におこなわれるようになった。わが国では国家総動員令体制がしかれ、そして、その年の9月には、私達中学4年生にも学徒動員令が発せられた。4年A、B組は日本化学郡山工場へ、そして私達のC、D組は保土ヶ谷化学郡山工場へ派遣されることとなった。工場は郡山駅の東方にあり、駅に近かったので、何時ものように学校へ通学するよりは遙かに楽であった。私は、自宅から列車で郡山駅まで行き、そこから工場へは歩いて4～5分であった。

19年の10月1日、私達は武知、浜崎、瀬戸先生の引率で、工場へと出向いた。工場の門前には音楽隊が待機していて、「ああ紅の血は燃ゆる」のメロディが流れる中に入場して行った。工場広場に集合し、篠崎工場長、平瀬研究部長、鈴木勤労部長等から歓迎の挨拶があり、私達は感激と緊張で身の引き締まる思いであった。

早速4～5名づつ、それぞれの部所へ配属が決まり、私はK Iと言う製造部門の現場へ配属された。

当時の保土ヶ谷化学郡山工場は、軍需工場に指定され、航空燃料のオクタン価を高めるための添加剤の製造が開始されていた。

既にアメリカではわが国より4～5年も早く、これらの添加剤が開発されていた。添加剤の組成は『四エチル鉛(四塩化エチル鉛)』と言う有機物質で、四塩化エチルと無機鉛とを反応させて有機鉛の化合物を作るのであるが、これらの製法は至難の技であっ

た。とくに戦時中のことでもあり、アメリカで開発された製法の文献は入手することは困難であった。

そこで、保土ヶ谷化学では東北大学工学部の篠崎博士に依頼し、四塩化エチル鉛の製法の研究を依頼し行わせていた。そしてようやく、その製法が可能となった。しかし、この製造過程では、有害な鉛を気化して有機化(アルキル化)することは、危険がともない、篠崎博士は鉛中毒(神経毒)に罹り、異常な行動をとるなどの噂が広まっていた。

郡山工場には専任の従業員と徴用工員などを併せて、およそ800名の人々が働いていた。そこへ動員学徒(安積中学100名、郡山商業80名、安積高女150名、白河高女160名、他に東北大学、米沢工専30名)が加わり、総勢1300名が働くことになった。

私が働くことになったK I現場は、反応釜(オートクレーブ)を用いて、塩化ナトリウムに濃硫酸を加えて反応させ、塩化水素を発生させる第一工程と、それにエタノールを加えて、四塩化エチルを作る第2工程の仕事で、危険な四塩化エチル鉛を製造する工程は他の現場で行なっていた。

K I現場には工業学校の応用化学科出身の若い現場主任と8名の従業員が働いていた。そこへ私達4名(広川、遠藤、大河原君と私)が加わった。

現場では濃硫酸を取扱うことから、私達はすぐには反応釜の操作の仕事はさせて貰えなかった。

最初は貨車から下ろされた原料であるエタノールの入ったドラム缶や塩化ナトリウム(岩塩)の袋詰めをトラックに積んで運ぶ仕事や、釜から取り出された反応釜の残渣(硫酸ナトリウム)を片付ける仕事为主であった。

入所してから3ヶ月ほどすると、次

第に現場内の雰囲気にも慣れ、仕事の内容も次第に理解出来るようになった。従業員が原料を釜内に仕込み、コックを開き硫酸を注加しながら反応が行なわれるのを、従業員から説明を受けて見学出来るようになった。

反応釜は直径2メートル、高さが2.5メートルほどのものであった。反応の様子は上部にある釜蓋の着いたガラスの覗き穴から内部を眺めることが出来、反応の状態をチェックすることが出来るのである。一番危険なことは、硫酸を加え過ぎると、急激に釜の内圧が高まり硫酸液が逆流することである。過去に、同じ職場の人がこの反応釜の操作の過ちから釜の内圧が上昇して、硫酸の注入コックがはずれて、逆流した硫酸を全身に浴び、生命に関わるような火傷事故を引き起こしたことがあったと聞いている。

釜内を覗いていると防爆タイプのランプを通して硫酸と塩化ナトリウムが泡を出しながら反応しているのが良く眺められ、それがあたかも、噴火口の中で溶岩が溶けているように見え、不気味であった。

毎日のように、工場内のある現場から塩素ガスが漏れ、鼻を突くような匂いのため喉を傷めることがしばしばであった。

危険な薬品を取り扱うことで、事故に遭遇することも多かった。私と同じ町から通っていたクラスメイトの椎根英資君は、作業中に濃水酸化ナトリウム(78%)を目に入れてしまい、入院加療を続けていたが、とうとう右目が失明する事故を起こしてしまった。

勤めて2ヶ月を過ぎる頃には私達もすっかり仕事や職場の雰囲気にも慣れてきて、従業員(工員)と同じように一昼夜交代制(24時間勤務)をとるようになった。

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172 3
TEL 0248-72-1555

朝9時に出勤して、翌朝まで勤務し、朝出勤してきた者と交代するのである。その日は明け番と言って自宅へ帰ることができた。翌日は日勤となり、8時間勤務となる。

日中は原料の仕込みを行なった後、夜中に反応が開始され、一晩中反応釜と首つきりとなる。硫酸を釜内へ注入しながら反応の状態を監視し一時も休むことはできない。17～18歳のわれわれ少年にとっては本当に厳しく過酷な仕事であった。

工場内には従業員食堂があり、夜勤者には夜食用の食券が配られ、午後8時になると夜食が食べられるのが何よりの楽しみでもあった。当時はすでに食料事情が逼迫して来ており、米飯と言うよりは、むしろ雑炊と言ったものであったが、それでもお腹が空いており、美味しいと言って食べていた。

職場の片隅には、我々学徒のために休憩室が設けられ、何時もその部屋で弁当を広げて昼食をとったり、休憩をしていた。夜勤の時は仮眠用の部屋としても用いられていた。また冬の季節には床下にスチームの暖房が施され、熱気が深い寒さ知らずでもあったが、作業衣のままゴロ寝をしていると、洗濯すらすることが出来なかった下着のシラミが動き出し、ムズムズと痒くて眠れなかった。

昭和20年の正月を迎えた。すでにサイパン諸島や硫黄島は玉砕しており、それらの基地から、敵の爆撃機が本土に飛来して空襲が頻繁に行なわれるようになって来た。東京や阪神地方の工業地帯は度々空襲を受け被害を被っていた。

2月中旬だったと記憶するが、われわれが働く工場に総理大臣である東条英機大將が見えて、工場広場に従業員全員を集めて、激励のための大演説を

ぶったことがあったが、その時私は何か嫌な予感がした。

やがて寒い冬も終り、桜の開花の季節を迎えた。そして私達の母校にも新たに新入生を迎えることになった。私達も暫く振りに登校して新入生を祝福したが、また再び厳しい工場の勤務に復帰した。

敵機襲来

4月12日、その日は朝からよく晴れており、私は午前8時30分に出勤し、夜勤を終えた方達と交代し、作業を引継ぎ反応釜の仕込みに入ろうとしていた。

午前11時20分頃だったと記憶するが、警戒警報のサイレンが鳴りだした。このようなことは度々あることなので、誰もがとくに気にも止めずに働いていた。間もなく昼食の時間となることから、食堂が混み合わないうちに、仕事を切り上げて食事に出掛ける人達も多かった。警戒警報から10分も経たない時である。空襲警報がけたたましく鳴りだした。それと同時に東の空の方から飛行機のかすかな音が聞こえて来た。外の方で誰かが「敵の飛行機だ、早く防空壕へ入れ」と怒鳴っているのが聞こえた。私達K I現場の何人かが慌てて屋外へ出て近くの防空壕へ入り込んだ。まもなくすごい轟音と共に地響きが続いて起こった。明かに私達の工場が爆撃を受けているようだ。壕内の誰もがどうすることも出来ず、ただじっと、うづくまっているだけであった。

やがて静かになり、一人の者が外の様子を見に行くと言って出て行って間もなく、再びものすごい爆発音が響き渡って壕内の土砂がくずれてきた。壕内の誰もがもう駄目だと思った。今、振り返ってあの時のことを思い浮かべ

ると、死の危険に直面している時には、人は虚無的であり、何も考える余裕すら無かったようである。B29爆撃機十数機の編隊は延べ10回にわたって、250キロの爆弾を工場の敷地内に150発、工場近くの田圃のなかを逃げて惑う人々に150発、計300発の爆弾が雨、霰のごとく落とされたのである。

約1時間30分に亘っての爆撃も終り、壕から出たときには、誰もが腰が抜けて歩くことすら出来ない状態であった。私達の現場は勿論のこと、工場の全ての屋根のスレート瓦は落下し、鉄骨のみがへし曲がっており、遠くの方までが見渡せるようになっていた。夫々の現場をつなぐ路上には電柱が横倒しとなっており、その下敷きとなった人々の何人かが死んでいた。

後で分かったことではあるが、この爆撃で私達の学友6人、郡山商業生7名、安積高女生4名および白河高女生16名が尊い命を失うこととなった。白河高女生が最も多数の被害を被った理由は、彼女達は工場での寮生活をしており、たまたま爆撃の時刻に、幾人かは昼食のため工場の外の寮へ昼食のため帰る途中であった。私は現場の仲間達とお互いに無事であったことを確かめ合い、そして、壊れた瓦礫の山を払い除けながら反応釜の状況を確認していた。

その後、工場広場の方ではクラス担任の安齋先生が生存者の確認を行っていると言うので出掛けて行ったが、仲間を探し求める人や受傷者を運ぶ人で、まさにパニック状態の有様であった。

間もなく、軍隊がやって来て一部の兵士達により、関係者以外の者の工場への立入を規制し始めた。また他の兵士達は受傷者を市内の病院へ車で搬送するために大童であった。

薬師堂クリニック

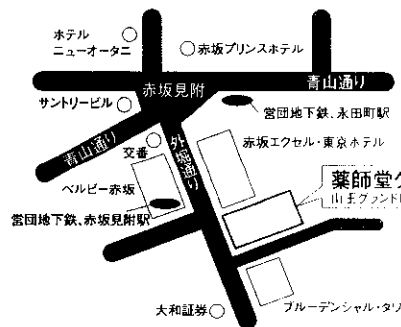
内科・消化器科・アレルギー科・東洋医学

院長・医学博士 石堂 達也(90期卒)

電話 03-3500-5090

FAX 03-3500-5367

Mail address : ishido@apo.ne.jp
http://www.yakushido-cli.com/



夕方4時近くだったと記憶するが、再び高度を上げたB29一機が飛来してきた。そして、それと同時に再び空襲警報が鳴りだした。私は工場の裏側の壊れた塀を乗り越え、大重川の川辺を無我夢中で阿武隈川のほうへ逃げて行った。しかし、その飛行機は被害状況の偵察機であったようだ。

私はもう身も心も疲れはて虚脱状態の姿で、歩きながら富久山町を通り、約4キロメートルの道程を自宅へたどり着いた。

翌日、私は何時ものように工場へ出掛けて行った。午前9時には大部分の学徒が集まっていた。

何時もの工場広場は瓦礫の山のため使用することは出来ず、守衛室の門外の空地で工場長や勤労部長の訓示があ

り、壊滅的打撃を被った工場の再建について誓い合った。担任の安斎先生から私達クラスの大竹道夫、柏村栄、小林文男、杉本眸、柳沼三郎、伊藤俊雄君の六名の死亡の報告がなされた。

その後、私達は悲しみを乗り越えて、仲間が直撃を受けて爆死したと言われる研究所があった付近をスコップで掘り返す作業を何日間か行ったが、その遺品すら発見することが出来なかった。

あれから五十数年後の今、当時のことを振りかえりながら、戦争と言う悲劇の中で若い命を落とした友を忍び哀れみ、自分がこうして平和な世を生き長らえていることを感謝しながら、二度とあのような過酷な戦争をしてはならないと心に誓いたい。

戦没者学友



(安中) 杉本 眸君



(安中) 伊藤 敏雄君



(安中) 柏村 栄君



(安中) 大竹 道夫君



(安中) 柳沼 三郎君

101歳の父と 安積の思い出

橋本 健二 (65期)

私の父は今年1月末満101歳になった。安積の思い出というどうしても父との思い出が重なり合ってしまう。

65期は旧制安積中学最後の入学だが入学式に来てくれたのも父だったし、在学中病気で入院したときずうっと付添ってくれたのも父だった。

終戦後、旧満洲から引揚げて来た私共は当時の国鉄郡山工機部に勤めていた父が公職追放をくったため、赤貧洗うが如きドン底の生活を余儀なくされた。当時学生服を買えないので父が復員したときもって来た軍服を着て通学した。帽子も軍帽だった。数年前の東京五十鈴会(首都圏在住者の同期会)でN君は「あんたの軍服姿を思い出すよ」といつてくれた。

父は郡山市内横塚の小作農の四男として生まれた。当時の東北の農家のきびしい生活に発奮し、職業軍人になることを決意、大正12年、仙台の第2師団(軽重隊)に入隊した。

昭和7年、旧満洲であった熱河作戦で復満し、長春、牡丹江と勤務し、現韓国仁川で終戦を迎えた。終戦時は独立自動車大隊の中隊長で陸軍大尉。

軍歴23年に及ぶ父の生涯信条はいろいろあるが、私がものごころついてからよく耳にしたことばは「人は1週間食わなくても死なない」、「寝る時間があつてヒマがないというな」等々。なるほど!! の思い出は子どものときと今も変わっていない。

父は生来こまかいことにこだわらず、いわゆるおっとり型である。意外に油っこいものや甘いものが好きだが、三食野菜を欠かさず、短時間でも

公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-6 共同ビル(錦町三丁目)6階

TEL 03-3291-8361 FAX 03-3291-8465

E-mail: takenori.hoshi@cac-cpahoshi.jp

星 武典(58期)

よく眠る。

五つ下の母と2人暮して、足が不自由な母に代って2-3日おきに乳母車を押して買物に出かける。畑いじりと新聞精読がなによりの生きがいで屋敷内の約40坪の土地に季節の野菜を作り、それを毎日味噌汁やおかずの具にしている。

昨年1月末の父の100歳の誕生日はちょうど日曜日、県知事や市長からの賀寿の贈呈があるというので子供や孫が集まった。福島民報の記者も同行してひと通りの贈呈式が終ったあと、父は大声で次のことばで謝辞を結んだ。

「軍人としてノモンハン事変や戦争に出動したことが忘れられない。今世紀は戦争や民族紛争のない平和な世界になるよう祈りたい」

生まれてこのかた決してリッチで恵まれたとはいえない父だが、当日の満足げな表情が印象的であった。

(日本ミルクコミュニティ(株)囁託)

私の愛国心

岩谷 徹 (67期)

二十世紀は大量生産、大量消費、大量廃棄の時代であったといわれます。別言すれば金中心主義の時代でした。当時の会社人間の姿を子どもたちは見て育ち所詮人生は金だという思想に染っていったとしても当然かも知れませんが、そして援助交際は何ら抵抗の無い女の子をこの社会は生み出しました。子供、若者は大人の鏡です。今の現象は大人がつくり出したそのものです。若者に夢が無いのも世界的かも知れませんが例外はあります。世界で一番の0.23ミリという歯車をつくる小企業は先輩が後輩を徹底的に仕込み、社長は社員の技術の進歩をよく見ているそうです。八割の社員が偶然に高校時代の突っ張りだったとか。

世を賑わす暴走族も自分の目指すものが無い為にあり余るエネルギーをどのように発散するのでしょうか。大人は子供や若者にやる気を起させる社会をつくり出す責任があります。二十世紀と一流企業に勤めるのがあたかも最終目的のように勉強しました。かつて大企業は一生安全と高給が保証されまし

た。それは金中心の価値観そのものでした。今の日本は若者がエネルギーを噴出できにくいですが本来その力は明治維新をも成し遂げました。

日本が再びやる気を取り戻すためには金でなくやり甲斐のある仕事を見つけ人を喜ばすことに自分の喜びを見出すことが大切と思われま

す。アメリカンドリームのように無産から巨万の富を得ることにより人の喜ぶ仕事で最少の生活ができればいいという方向に価値転換ができるとリストラで絶望、自殺しなくても乗り切れると思います。今の日本はあたら才能、経験のある中年を活用できないでいます。日本が富める国になって得た良い点と悪い点と半々ではないかと常々思っています。日本の倫理は本来貧しい社会で生れ自己を抑え他者の立場に立って全体の調和を考えるものでした。敗戦以来欧米の価値観が日本人を大きく変えてきました。今必要なのは正しい日本語で日本の美質を再考、再構築することだと感じてなりません。そして本質的な議論のできる、時として頑固者を許容する生々とした雰囲気醸成されなければ活力のある社会は再来しないでしょう。教育は国家百年の計といった明治のように日本人が短視的でなく長いスパンで考えるようになって欲しいものです。

(銅版作家・在仏三十年を経て郡山在住)

第2回 岩谷徹 個展

会 期 平成15年4月16日~29日

と ころ 銀座「兜屋画廊」

電話 03(3571)6331

「カンプラ」と掛けて「ノーベル賞」と解く

水口 禎 (67期)

「カンプラ」と掛けて「ノーベル賞」と解く。ココロは《須賀川→安積→横須賀コネクション》

かつて元朝日新聞論説委員牟田口義郎氏が須賀川女子高校の学校祭に招待されて講演を行う。その数日前、新聞掲載の高久田大一郎氏(同市博物館長)の投書が伏線にある。

高久田氏投書《ばれいしょを「カンプラ」といっては老妻からまで笑われ

るようになった。……明治13年の福島県報に「須賀川村橋本伝エ門(中略)洋種ノ内米国寒時ノ大麦、仏国二季作馬鈴薯ノ二種モットモ優レリ」とある。明治十年前後、当地方にフランスから種いもが入って来たことは立証されるが「カンプラ」の語源がわからない。この語源をご教示ねがえまいか」と。続いて牟田口氏の「カンプラ語源説」について蘊蓄が披露されるが、語源説そのものは本稿の主題ではないので省略する(牟田口義郎著『旅のアラベスク』所収「カンプラ文化誌」)。

ただ、「カンプラ」語源については公平を期するために、桑野会のある会で提言された古川会長の「ドイツ語“Kartoffel”語源説」も紹介しておきます。

さて、須賀川からの招待理由はミステリーだと言いながら、牟田口氏は旧制高校時代、戦争中郡山での恩師の歓待に思いを馳せる。当時、中学時代の恩師はわが母校安積中学で教鞭をとっておられたのだ。その先生とは誰? 同書のどこにも横須賀の名はないのだが、著者経歴に横須賀市生まれとの記載。そこで、戦争中横須賀中学からわが安積に転校されたと聞いている、大変な情報通の池上喜久氏(61期)に照会。疑問は立ち所に氷解する。

その恩師とは斎藤徳太郎先生だとわかる。先生の横須賀中学在職は昭2年4月~16年10月。その後安積中学には昭16年11月~21年5月在職(戦争期が完全に含まれる)の英語教師。

横須賀中学(後の横須賀高校)で池上氏は牟田口氏の後輩、と言うことは、昨年のノーベル物理学賞受賞の小柴昌俊氏の後輩にもなるわけである(受賞報道直後に改めて確認の結果、入学時在校生名簿に5年生小柴昌俊の名ありとのこと。ずーっと後輩に小泉純一郎という人も)。斎藤先生の横須賀中学の在職期間から判断すると、牟田口氏の3歳下の小柴氏も斎藤先生の教え子に違いない。情報を頂いた池上先輩に感謝します。

「カンプラ」から、どうにか辿り着いた謎解きのココロ。カンプラ語源→高久田博物館長→須賀川女子高校→牟田口義郎氏→斎藤徳太郎先生→安積中学→横須賀中学→小柴昌俊氏→ノーベル賞まで。

戦中と敗戦直後の大変な時期、齋藤徳太郎先生の薫陶を受けられた多くの会員各位から会報への寄稿をお願いします。(東京桑野会副会長)

60歳からの ホームステイ

鈴木 一功 (70期)

以前から観光地として興味のあったニューヨーク、ロンドン、パリの3都市を3年かけ、各2週間づつホームステイしてきました。

私が定年となった1999年、アメリカ経済は絶好調で世界経済の中心地であるニューヨークの一般庶民はどんな生活をしているのか体験してみたかった。また趣味の一つとして勉強していた英会話を実地で試したかったし定年2年前に入った男性料理教室のお陰で、普段米国市民がどんな物を食べているか非常に興味があった。

インターネットを利用してブルックリンに住むスリランカとジャマイカー家に1週間ずつお世話になることになった。それから2週間、ステイ先での家族と対話を楽しみながら観光地・博物館見学、ミュージカル観賞等充実した毎日を体験した。これを一言でいえば“Exitingな経験”と表現できる。

帰国して1ヶ月あまり緊張がゆるみ逆に虚脱感に悩まされた。

翌2000年にはロンドンでホームステイをしたくなった。英国には以前行ったことがあるがロンドン見学は半日のみでじっくりと市内・郊外を歩いてみたかった。また、テニス愛好家としてウィンブルドンテニスを見たかったし、英国の国花であるバラを思う存分観賞したかった。それに郊外の庭園のある家に住んでみたかったし、不味いと言われる家庭料理も味わってみたかった。留学幹旋所を利用してロンドンの東南にあるTonbridgeの一軒家と市内のアパートに住むノルウェー移民一家のお世話になった。それから2週間、ロンドン郊外の広大な美しい裏庭、美味しいブディングおまけにステイ先のご主人とゴルフまで体験することができた。

ロンドンから成田への帰路、機内でのほっとした気分の中で急にパリに行

きたくなった。NY、ロンドンとくれば次はやはりパリだ。ただフランスに対しては前仏女性首相クレソンの“ウサギ小屋”の発言以来こだわりがあった。どこが嫌なのかこの目でみてやろうと観光会社の紹介で英語の話せる市内16区のアパートと郊外マルメゾンの一軒家にステイすることになった。聞くと見るのは大違いで英語は通用するし、パリの人達は親切だった。

観光地、美術館、大道芸人、家庭料理そしてローランギャロスの全仏オープンと思う存分楽しむことができ、今までフランスに対して抱いていたイメージが180度変わった。

海外でのホームステイと言えば、中高校生の専売特許と思われているが、中高年でも十分に経験し楽しむことができる。むしろ彼等より、今までの人生経験を生かしてさらに奥の深い海外経験ができると確信している。

海外旅行の時だけにつけている日誌をもとに、今回のホームステイ体験をエッセイ集にまとめました(近代文芸社刊『60歳からのホームステイ』)。興味のある方は一読お願いいたします。

「再発見された国 アフガニスタン」その後

石黒 早苗 (71期)

2001年9月11日からの1年間、燈台(アフガン難民救援協力会)へはアフガニスタンに興味を持った多くの方々からの問い合わせと善意の献金が寄せられた。燈台は2001年10月から2002年9月までに11万ドルの緊急援助を行った。その内容は次の3つである。新たに難民としてペシャワールに到着した5727家族、約3万5千人の人々への食糧援助、生活支援の実施。第二に、小児と女性を対象とした女医中心の移動クリニック(2002年9月末までに26,451人の治療)の運営、第三に、カブール・クリニックでは以前から治療しているマラリアとリーシュマニア症に加えて緊急医療援助(9月末までに14,140人の治療)の実施。

ロヤ・ジルガが開かれ、カルザイ大統領が選ばれた後、ペシャワールからは多くの難民が帰国し、カブールに国連機関、全世界の多くのNGOが援助

活動を始めたこともあり、燈台の緊急援助活動は2002年9月で終了した。しかし、パキスタンのクエッタでは難民学校の教師は帰国しても、生徒の数は1600人と減少せず、家族を残したまま、働き手だけが帰るといった実情を示している。有能な教師は帰国し、高い賃金を得られる仕事に就き、燈台などのような低賃金のNGOは人材不足に陥っている。アフガニスタン全体が教師も含めた人材不足であり、それが国の支障にもなっている。また、多くの援助団体がカブールにはいつてきたことが物価を押し上げる要因となった。高騰したカブールの土地の値段は「ゴールド・ラッシュのようだ」と調査した燈台難民学校の校長が表現している。そんな状況下でも明るい材料は、2003年から大学が再開され、燈台難民学校からも5人の女生徒を含めた27人がカブールの大学を受験したことである。カルザイ大統領就任後も治安は悪く、大統領自身の暗殺未遂も起こっている。そのため援助活動はカブールとその周辺だけとなり、残る90%の地域が援助から取り残されている。180万人の難民が帰国したが、未だ400万人の難民が残っており、さらに国内難民は25万人と推定されている。2002年1月、東京で開かれたアフガニスタン復興支援国際会議に出席した日本を始めとする国々の援助はアフガニスタン国内、それもカブール周辺に限られていて、帰れない難民は対象にならないし、地方では、干魘の影響もあり、生活は困窮している。地方の軍閥の支配は相変わらず続いており、中央政府は限定された働きしか出来ていない。しかし、唯一女性教育ではカルザイ大統領は高い評価を受けており、今回のカブールの大学受験者4200人のうち1334人が女性だったとのことである。

日本人の関心は拉致問題・北朝鮮問題に集中し、世界の人々の関心はイラクに集まっている。しかし、アフガニスタンを再度忘れられた国にしてはならないと思い、援助を継続している。

燈台(アフガン難民救援協力会)

〒364-0021

埼玉県北本市北本宿161-4

南福音診療所 内

事務局長 石黒早苗

(南福音診療所所長 医師)

いまでも女性は太陽だ

丹治 則男 (81期)

母校が共学となり、驚愕とは言わな
いまでも、私も「なぜだ」と叫んでし
まった卒業生の一人。なぜだろう。女
性が嫌いなわけじゃない。むしろ人並
み以上に大好きなのに、どうして「男
子校のままでいいじゃないか」と考え
るのか。思うに、女性は「畏れ多い」、
女性には「とうてい敵わない」という
意識によるものではなかったろうか。

5年前から、東洋大学でマスコミ論
の講義・ゼミをもっている。「もてる
からだ」と自分では思いこんでいる
が、受講生はどういうわけか女子が多
い。毎年、3分の2近くがそうなの
だ。発表も、質問も、レポートも、女
子が圧倒的に多く、鋭く、積極的で、
かつ適確でハイレベル。多勢に無勢と
いう「数の論理」がその理由だとは、
とても思えない。

私は酒が好きだから、ゼミの日は必
ず大学近くで喉を潤し、頭を麻痺させ
ることにしている。学生も知っている
から、黙っていても、10人前後、店に
ついてくる。その多くは女子。しか
も、席があいているかどうかを確かめ
に走るとき以外、女子が男子の後ろか
ら店に入る姿を見たことはない。

オヤジである私は1杯のビールの
後、熱燗を飲む。男子は、なにやらカ
ラフルな「××ハイ」などという代物
を飲む。が、女子は4月こそ「お燗の
日本酒は匂いが……」と言ってビールの
延長戦をしているものの、GW明け
にはすっかり「日本人はこれよ！」と
か小生意気なことをのたまって、お銚
子の首をつまんでいる。挙句、あろう
ことか「アチチチ」と耳たぶをつまむ
ことまで覚えてしまっている。なんと
いう適応力か。

記憶をたどってみた。中学生のころ
までは、なんとかごまかせた。腕力が
今より市民権を有した時代だったこと

もあろう。高校は言わずもがなの男子
校。大学ではクラスに女子は3人しか
いなかったから、これはいわゆる「誤
差の範囲」みたいなものだった。もっ
とも、この3人、裁判官、弁護士、某
有名弁護士の夫人となっているし、会
社法やらの細かい法律のレポートは丸
投げでお助けいただいたのだが、現実
と真実と真理をよく認識しないうちに
4年間はすぎた。

しかし、世の中、そうは甘くなかつ
た。配偶者はもちろん女性だったか
ら、ここでたつぷりとその性の「優秀
さ」を思い知らされた。ここだけの話
だが、携帯電話なんかなかった昭和40
年代、心を伝えるほとんど唯一の方法
だった手紙は先方から来た。長いマフ
ラーや手作りのクマの縫いぐるみも郵
便小包で送ってきた。年貢の納め時と
観念してそれらしい言葉を伝えた喫茶
店で、黙って涙を流して頷いたのだっ
て向こうだった。完璧に、私が優位に
立っていた、ハズだった。なのに――。

女性には、ひよっとしたら「ためら
い」「羞恥」「熟慮」「実行」「忘却」
「思慮」などというものを、切り捨て
たり、乗り越えたり、活用したり、と
ときには押し込んだり、忍び込ませた
り、実に巧みに操る才能が、生まれな
がらにして備わっているのではないだ
ろうか。決して公言できないが、私は
そう信じている。

大学院に進んだら、教師と学生との
距離が詰まるのか、ゼミOB&OG会は
女子が仕切り、あろうことか、「身体
にいいこと、悪いこと」を説教するよ
うな手合いも現れる。

敵いつこないのだ。自慢じゃないが
賞味期限も切れようとしているほどに
人生経験を重ねた私だって敵わない。
まして年端も行かない高校生が勝てる
わけじゃないじゃないか。

だから、星ふたつぐらいの距離を置
くのがいい。なぜなら、原始どころ
か、現代も女性は太陽らしいのだから。

(東洋大学非常勤講師)

先に逝った友よ！ 語りたかったよ、 アマゾンのこと

広居 照正 (88期)

「おお、生きて帰ってきたのか」。安
積の同期の友が、ブラジル帰りの私に
言った。仕事で8年ほどブラジルに駐
在していた。

無事帰ってきたことを喜んでくれた
友が昨年末、突然、逝った。早すぎる
旅立ちであった。まだまだしゃべりた
いことが山ほどあった。南米の話もア
ンデスの山ほど話したかった。この場
を借りて話そう、君のために――。

君が行きたがっていたアマゾンに何
度も行ったよ。アマゾンの真ん中にあ
るマナウスに着くと、ムツとした空気
が肌に付いて、汗になって流れ出して
くるんだ。

アマゾンは広いよ。河口の街・ベレ
ンからマナウスまで、飛行機で2時
間。見える景色は同じ。緑一色。あと
は何もない。だから緑の魔境と言われ
るんだよ。

アマゾンは、大地というより川なん
だ。葉脈のように、川が走っているか
ら、川から見ないとアマゾンが分から
ない。広いよ！ 河口の川幅は400m。
渡るのに船で2日かかるんだ。その船
のベッドはハンモック。揺られ揺られ
て着いた時にはフラフラだよ。

河口にマラジョ島っていう川洲があ
るんだ。その川洲の広さがすごい。九
州と同じなんだよ。

アマゾンの一年は雨季と乾季に分か
れるけど、雨季になるとアマゾン川の
水位が10mもあがるんだよ。だから、
港の棧橋も浮き沈みする。雨季の時の
マラジョ島はすごいよ。増水を避けて
牛が高い所に移動するんだ。逃げ遅れ
た牛はピラニアの餌食になることもあ
るんだよ。

アマゾンはすごいとこだよ。かつ
て、ブラジルに亡命したツヴァイクも
アマゾンの大地に立った時、こう言っ
たよ。「アマゾン川、その雄大な流れ
を見るのが、子供の頃からの夢だっ
た」。

君に見せたかった。アマゾン川に佇
みながら語り合いたかった。

日本人がほとんど行ったことのない

奥地にも行ったよ。マナウスから約1000㌾、サン・ガブリエル・ダ・カシヨエラという赤道近くのインディオの町に行った時のこと。

川の石と石の間に棒のようなものを突っ込んで何かを探している人がいる。「石と石に挟まった金を探している」というんだよ。山から金が流れてくると。すぐ近くに山があった。ひと山全部が金山なんだ。残念ながら、僕には取れなかったけど。

現地のインディオの案内をつけて、そこからさらに未踏の地へ。ジャングルを踏みしめると、フワッと10㌾も沈む。枯葉の堆積量が多くて、最高級の絨毯を歩いているようなんだ。

高さ50㌾ほどの所に木の株があった。そこに鳥が卵を産んでいるんだよ。人が通らないから鳥も安心だという。

日長一日、そんな所で魚釣りもした。人などいない。物音一つしない。地球の鼓動すら聞こえそう。こういう自然に囲まれると、いろんなことを考えるよ。「調和」というか、「謙虚」というか、人間が人間に戻されるね。

カマユラー族に伝説があるんだけど、それを思い出したよ。マブチニンというインディオの創造主が、地球をつくる時の話なんだ。

「土の鍋」と「黒い弓」と「白い弓」と「棍棒」と「銃」を作って、「カマユラー」「クイクロ」「ワウラー」「チュカハマイ」の四つの部族をつくったそうだよ。

マブチニンは、それぞれの部族に好きなものを選ばせた。ワウラーは土の鍋を取った。カマユラーは黒い弓を選んだ。クイクロは白い弓を取り、チュカハマイは棍棒を選んだ。だれも取らなかった銃は、白い人のものになった。

白い人は、やがて火の武器でほかの部族を脅かすようになった。マブチニンは怒って、白い人を部族から遠ざけてしまった。こうして、どの部族も平和に暮らせるようになった、という物語なんだよ。

文明がいいのか悪いのか。考えさせられるね。君と語り合いたかったよ。早く戻ってこいよ。そしてまた安積に戻ろうよ。

(聖教新聞社)

『一日生きることは 一歩進むことで ありがたい』

石堂 達也 (90期)

私は、昭和33年生まれ、昭和52年に安積高校を卒業し、医師の道を志した。医師になって今年でちょうど20年目を迎える。

私が弘前大学医学部時代、放射線科の授業で助教授がお話になった。「君達は医学の勉強を始めて数年しか経っていない。医学の道で言うならばまだお母さんにオッパイを貰い、言葉をひとつひとつ教えられている乳幼児である。私は医者になって20年経つが、自分では中学校のレベル位だと思う。一生かかってもなかなか大学レベルには到達するのは難しい。是非皆さんには大学レベルに到達できるよう医学の道を精進して欲しい。」奇しくも自分がその助教授と同じ年代を迎えているが、自分はどのレベルに達しているのでしょうか？ 私は消化器内科、特に内視鏡診断を専門としているが、内視鏡診断では中学校2年、消化器内科では小学校5年、その他の内科分野では小学校3年程度のレベルではないだろうか。

当時20歳ごろの自分から見ると40半ばの先輩は一人前の医師であり何でも知っているように思われた。しかし、実際自分がその年齢に達してみると、如何に知らないことが多いか驚愕してしまう。まさに馬齢を重ねるが如しである。これから何年間医師を続けることが出来るか分からないが、何とか高校までは進学したいものである。安積高校の創立90周年記念で頂いた楯に記された言葉『一日生きることは一歩進むことでありがたい』を忘れることなく日々向上心を持ち続けたいものである。

話は変わるが、私は学生時代の6年間を青森で過ごした。青森県にも桑野会があり、会員は30名位であったと思う。故郷郡山から遠く離れた北国で暮らすためか、皆さん望郷の念が強く、桑野会の会員同士の結びつきは非常に強固なものであった。特に、幹事長上野敏夫先生(上野病院院長)には一方ならぬお世話になった。上野先生にはお子さんがおられなかった関係もあ

り、我々桑野会の学生を我が子のように可愛がって下さった。しょっちゅう上野先生のお宅にお邪魔しては美味しい食事や高級なお酒を飲ませて頂いた。先生の好物は薄皮饅頭で、帰省の時に土産に持って帰ると大変美味しそうに召し上がり、安中時代の思い出を話して下さった。あの時のまるで少年のような目の輝きを今でも思い出す。上野先生は平成13年2月にお亡くなりになられた。何一つご恩に報いることが出来なかったことが誠に心残りである。

東京桑野会では、大学生や若い年代の総会出席が少ないように思える。積極的に参加し、諸先輩と交流を図るとともに、桑野会に若い活力を与えて欲しい。

(薬師堂クリニック院長)

同窓会に思う 集中と分散

吉田 弘倫 (95期)

10年以上も前になるバブル期、バブル崩壊を経て不況のトンネルを抜けきれない今日ですが、「選択・集中と分散」は企業規模でも組織的にも繰り返されてきている事をご存知の通りです。具体的には企業内の事業単位による分社・統合からメガバンクの登場などに見られる企業単位の統合化などが挙げられます。一方、IT業界においても、システム環境における分散や統廃合などが実施されています。これらは、企業が景気変動とともに生き残るために、発展し続けるために取り組んできています。まさにその最中に身をおいて活躍されている同窓生も少なくないことと思います。

そこで、ここでは「人における集中と分散」を考えてみることにしました。全く異なる規模の話になりますが、同窓会にも言えることかと思えます。例えば、私達自身も昔、自らの意思のもと安積高校に入学し、そこに集い、3年間を過ごした後それぞれの道へと進んで来ました。これも「集中と分散」です。さらに郷里から離れたこの東京で、同窓生が一堂に会する事も同様です。互いの近況報告をする中で、若かりし日の自分を重ねながら、

杯を交わし、その後また各人がそれぞれの立場での顔を持って活躍をしています。たった3年間に学び舎が共通なだけの繋がりなのですから、なんとも言いようの無い人の動きです。

私も卒業後20年近く経った一昨年に、初めて東京桑野会の懇親会に出席させていただきました。それまでは、いずれの同窓会も昔を懐かしむだけで現状に目を向けない後ろ向きな交流に思えてなりませんでした。しかし、様々な業種業界の方とお付き合いをさせていただくにつれ、各人が別々の目的で過ごしているからこそ、常に互いに影響し合うことで成長を重ねていくものだと強く実感した事から参加してみました。会場では、案の定知っている方は見当たらず、ただ安積の卒業生という共通項だけで、多くの方々と話げできました。営利的な付き合いもなく、普段顔を合わせている間柄でもない中でのコミュニケーションにより、不思議と活力を得た感じがしました。

まさに、「集中と分散」は関係するモノの成長や発展をもたらします。同窓会を一見人情的で無目的集合に捉えてしまいがちですが、構成するモノが発展し続けるために取り組んでいる活動としては、社会や組織を形成する最小単位の「人」でも同じであると言えます。さらに、繰り返される中で、集中の際には必ず「選択」が前提となることで革新的成長が実現します。

最後に私事ですが、IT関連技術に携わり15年目になります。この業界の技術もまさに「集中と分散」のサイクルで成長しています。具体的には、大型コンピュータ中心の集中型から小型コンピュータ中心の分散型、近年ではパソコン、携帯電話や携帯端末などのモバイル系端末の技術革新と普及によるITの分散化が進んでいます。近未来は、個々を繋ぐネットワークが、水道や電気のように必要な時に必要な分だけを使えるようにと管理・供給面で集中化が進んでいきます。そのような折、私はすべてが有機的な繋がりをもって進化していく真っ只中にある事を楽しんでおります。

(日本アイ・ビー・エム株式会社)

安積の先輩方

加藤 祐一 (105期)

平成6年、大学3年生であった私は、初めて東京桑野会定期総会・懇親会に出席した。

きっかけは、前年度の総会に出席していた同期の高橋武良君(蒲田税務署勤務)の誘いであった。

当時、司法試験の勉強を始めたばかりの私は、「たまには息抜きも必要だな」と彼の誘いに乗った。

当日は、懇親会で、多数の先輩方の助言等を頂くことが出来た。

その中で、特に印象に残っているのが高瀬禮二先輩(46期・弁護士)のお言葉であった。

弁護士を目指して司法試験の勉強を始めたばかりであることを伝えると、高瀬先輩から、「安積出身者で、弁護士、裁判官、検事になった人はたくさんいるよ。安高生なら大丈夫。やる気さえあれば必ず司法試験に合格できるよ。」と、優しく声をかけていただいた。

私は、平成11年、司法試験に合格することができたが、高瀬先輩から頂戴した言葉が私の支えになっていたことは言うまでもない。

平成13年、佐藤秀雄先輩(67期・税理士)から誘われた私は、7年ぶりに総会に出席した。

佐藤先輩とは、櫻井孝一氏(早稲田大学名誉教授)が主宰する勉強会で知り合ったが、安積の後輩として、何かと目を掛けていただいている。

平成13年度の総会において、若輩者の私が、近況報告の機会を与えていただけなど、先輩方の器の大きさには、ただ脱帽するだけである。

私も、少しでも東京桑野会の先輩方のお役に立ちたいと考え、平成14年度から、東京桑野会の幹事にさせていただいた。

当面の私の課題は、総会にもっと若手を出席させることであると考えている。

幸運なことに、私は、総会等を通じて、安積の先輩方から、大変貴重な話を伺うことができた。

もっと多くの同期や後輩にも、私の

ような機会を提供したい。

今年度の総会には、昨年度以上の同期・後輩が出席していることを、切に願う次第である。

(弁護士 鳥飼総合法律事務所)

野球部での思い出と後輩に望むこと

栗谷川 貴志 (108期)

今年の「冬の全国高校サッカー大会」で福島東高校がベスト8まで進んだことは皆さんの記憶にも新しいことと思います。福島県勢としては19年ぶりの快挙ということで、新聞、テレビ等のメディアでも大きく取り上げられました。

同様に、2年前(2001年)の「春のセンバツ」に安積が出場したときもメディアで大きく取り扱われ、県内も異様なほどの盛り上がりを見せました。

私自身、野球部のOBということもあり、甲子園のグラウンドに安積のユニフォームが登場したときには、何かこう、非常に感慨深いものがあったことを覚えています。私たちが3年生だった最後の夏も、県でベスト8止まりでしたし、私たちの頃には「春のセンバツ」にも「21世紀杯」なる特別出場枠はありませんでしたので、感慨深いと同時にそのときの後輩たちがうらやましいという気持ちももちろんありました。

しかし、「文武両道」に重きを置き、スポーツだけでなく、勉学の面でも高いレベルを目指す安積の精神が認められ、評価されて我々OBの念願であった甲子園出場がかなったことは、やはり嬉しいものです。

現在の安積野球部は、その甲子園出場がきっかけとなって、県内外から試合の申し込みを多くいただけるようになったと聞きます。正直言うとこれは、私が現役だったころには考えられないことでした。県外への遠征試合は私たちもそれなりにした記憶がありますが、大抵はこちらから試合を申し込んでいたのではないかと思います。試合に行った先でも、高校名を間違えられたりするのほざらでした。それだけ野球では名前が通っていなかったのか、あるいは私たちの時代が単に弱か

ったからなのかわかりませんが、逆に向こうから申し込みを受けるようになったことは甲子園効果とでもいえるのでしょうか。いずれにしても私は県外のチームと試合をできる機会が増えることは今の選手たちにとって非常に良いことであると思います。

というのも、夏の甲子園大会で福島県勢は8年連続1回戦で敗退していることから、もっと県外のチームと試合をして彼らのレベルを知るとともに、より多くの経験を選手たちに積ませることが必要だと考えるからです。

加えて、私たちが現役でまだ一つ上の先輩方がいらしたときに、「甲子園で校歌を歌う」ことを目標に掲げたことも私がそう考える一因です。現役の後輩たちには、甲子園に出場することで満足せず、さらにそこから一つでも二つでも上を目指してほしいと思っています。

現在私はメディアの世界で働いています。その立場から福島県の高校スポーツ界全体に望むことでもあるのですが、後輩たちには目標は限りなく大きく持ってほしいと思います。経験の違いこそあれ、まわりも同じ高校生です。福島東の快挙もそうですが、県外のチームとより多くの試合をできるようにしたこのチャンスを逃さずに、強い福島高校スポーツ界を築いてほしいと思います。もちろんその牽引役が安積であることを期待しています。

(福島民友新聞社
東京支社営業部勤務)

合唱全国大会 初の金賞受賞

麻山 皓太 (116期)

僕たちにとって三年間の集大成。最後のコンクールでした。三年間夢見てきたこのステージ。選ばれし団体のみが立てるこのステージ。そんな大舞台での演奏。そして聴衆の方々の惜しめない拍手。初の金賞受賞。達成感と今までに出会ったことのない喜びに、仲間と涙を流しながら抱き合いました。

今振り返ってみると、このような素晴らしい体験をすることができたの

は、受験を控えながらも10月末まで歌うことを理解してくださった保護者の方、文武両道の校風を貫き、支援してくださった先生方、地域の方々、僕らを励まし力づけてくれた女子部員のみなさん。そんな僕らのまわりの全ての方々のおかげだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、僕は出演者全員で「大地讃頌」を歌うときに指揮をする、という体験をしました。全国から集まってきた会場いっぱい（二千人はいたでしょうか）の人たちが、自分の指揮で歌っている。会場が一つになった瞬間でした。その時の感動は、とても言葉では言い表せません。

僕が仲間たちと一緒に歌い続けてきたことによって得た物は計り知れません。随分この合唱団や仲間たちに育てられてきたな、と思います。この部活を通しての経験を生かし、これからも自分を成長させていきたいと思っています。

(安積高校合唱部部長)

みんなで神戸に 行った日

吾妻 啓佑 (116期)

思い起こせば入学式で聞いた合唱部による校歌披露、その歌声を聞いた瞬間、私は男声合唱の虜となり、音楽室へと続く階段を歩き始めていたのです。

あれから二年半。全国大会金賞という結果を得ることができたのは、顧問の五十嵐先生、合唱の素晴らしさを伝えてくださった先輩方、なんだかんだけんかしながらずっと付き合ってきた同輩、そして至らぬ指導に文句も言わずついてきてくれた後輩、そしてそして、この安積高校合唱団、ひいては安積高校という伝統を伝えてきて下さったたくさんの方々の先輩方、みんなみんなのおかげだと思います。共に喜んでくれる先輩方がいるというのは本当に幸せなことです。ありがとうございます。さて、私、全国大会出場には個人的に強い思い入れがありました。全国の合唱をやっている人達全員に、「安積女子（現安積黎明）」と、「安積」の区別をつけさせてやるってことです。郡山市で全国大会が開かれた時、ドア

マンをしていた私に「君は安積高校生か。合唱じゃあ安積女子校が有名だけど、そこは違うのかい？」と言いつつ放った老人の言葉に悔し涙して以来の悲願でした。あれから練習して練習して、やっとこさ全国大会に出場できて、金賞いただいちゃって、審査待ちの空き時間に会場で大暴れしちゃって、「安積」の名を全国に知らしめる第一歩を刻めたこと、本当にうれしく思います。

この合唱団で歌えたことは私の生涯の誇りです。大好きな安積高校合唱団。名残り惜しい気もしますが、後は後輩に譲って、今後のご活躍なんかを祈りながらおとなしく引退したいと思います。では。

(安積高校合唱部)

安高へのあこがれ

53 (安積92期
相当)
渡部 安由子 (昭和59年度安女卒)

「安高生とつきあいたい！」それは、すべての安女生のたつての願いであった。…と思う。安高生をゲットすれば、いっしょに勉強したりして、ロマンスと勉強の豪華二本立て、バラ色の毎日、志望校合格…乙女の妄想はもはや、留まる所を知らないのであった。

しかし、出会いの場はあまりに少ない。春、お花見マラソンで開成山に行った際、はるか遠くにそれらしき人影をながめるのみ。いったい、どうすれば…？

私は、剣道部に所属していた。当時、安高剣道部の顧問は吉崎勝先生であった。吉崎先生はたいへん粋な方で、練習場の無い安女剣道部が安高の格技場でいっしょに練習出来るように取り計らってくださったりした。また、試合で遠征の時など安高生の部屋へ遊びに来よう誘ってくださったりもした。そんな時私達は少し迷惑そうな顔をしながら、内心、飛び上がらんばかり、ややもすると鼻血が吹き出しそうになるのをかろうじて抑えるのであった。さて、部屋へ行ってみるといって、いるワ安高生がゴツチャリ。天にも昇るような気持ちで部屋の隅っこに座ると吉崎先生が「よし！一人ずつ何か芸を披露しろ。」めまいがした。

天国から一気に地獄。親友のY子は？と見ると顔面蒼白、耳だけ真っ赤。おまけに黒目が上がってしまい、ほとんど白日。どうやら私以上に舞い上がっていたらしい。Y子はなまじっか美人なだけに白目むいた顔はあまりに恐かった。夢に見そう。これでは安高生も寄っては来まい。かわいそうに。私は何度もまばたきをして黒目の上昇をおさえた。安高生の部屋を後にするとY子は私に言った。「アンタ、ぱっちり二重瞼をつくらうと思って、何度もまばたきしてたでしょ。ギャハハハハ！」私達にとって安高生は遠い存在となりました。

安高も安女も共学となり、私達のように男子学生に度を越した幻想を抱くことはもはや無いのかも知れません。しかし、安高OBの方々は皆さん共通のある雰囲気を持っていらっしゃる。そしてそれは、今なお私の心を引きつけて止みません。この不思議な魅力は安高で学んだ者だけが知らず知らずのうちに体得する物なのかも知れません。皆さん、本当にステキですもの。

(主婦)

今、甦る朝河貫一

— 顕彰協議会の設立を願う —

鎌澤 修一 (72期)

2003年(平成15年)3月半ば、米英両国のイラク攻撃が秒読み段階を迎えたこの時期を目の当たりにしたならば、朝河貫一は如何なる論陣を張ったであろうか——日露戦争(1904年～翌5年)をきっかけに増長していく母国日本に向けて発信した警告の書「日本の禍機」に記された“広い視野に立つての国際協調”を今こそ思い起こさなければならぬ。2004年(平成16年)は、戦争の世紀幕開けの象徴的な出来事——日露戦争から100年を迎える。加えて、本年は博士の生誕130周年、没後55年にあたる。

◇

平成14年8月盛夏(11日)、二本松市から旧道を辿って朝河貫一揺籃の地、福島市立^{なつごやま}立子山の天正寺を訪ねる小さな旅(緑陰セミナー)が開催された。これは朝河貫一研究会の中核として活躍されている弁護士の柳沼八郎氏

(50期)、横浜市立大学教授矢吹晋氏(70期)、それに二本松稲門会、真行寺住職、佐々木道昇氏、立子山在住の郷土史家藤原孝雄氏らの並々ならぬ情熱によって実現、70名を越す方々が参加した。本堂には発足したばかりの「立子山顕彰会」の関係者30人が詰め掛けで私達を迎えてくれた。

天正寺の石灰の壁には貫一4歳の時の毛筆による駿馬の落書きが残されている。これも年月を経て風化が進んでいた。貴重な資料の数々を新世紀初頭のこの時期に調査収集する必要がある。しかも、朝河貫一の顕彰と歴史を学ぶ心を、若い世代に継承しなければならない。参加者全員が、この思いを強くしたセミナーであった。

◇

福島県が生んだ世界的な歴史学者、朝河貫一(1873～1948)は、律令国家から封建時代を経て明治維新——近代国家に至る「日本」の姿、形を世界に向けて初めて紹介したいわば「日本学」のパイオニアである。その功績が米国で認められ、かつて、大改修前の「自由の女神」の中に、郷里を共にする野口英世と並んで掲額されていた。その野口は、来年には千円札に登場する。私共は、ここに改めて常設の「朝河貫一顕彰協議会」を立ち上げ、息の長い顕彰事業を展開すべきものと考え、次第である。

もとより目的は、一人でも多くの志ある人々に、朝河貫一の業績の偉大さを認識して頂き、博士が灯した世界平和とわが国の真の自立の途を照らす歴史の光を一層輝かせんと願うからである。以下、当面の活動経過と方向性について報告申し上げたい。

◇

平成14年11月20日、二本松市民会館で開催された「21世紀フォーラム～甦る朝河貫一～」——福島テレビ・二本松市教育委員会共済の後を承けて、昨年12月中にこの趣旨を、二本松市長・教育長、福島市長・教育長に説明、去る3月6日には、東京から柳沼八郎氏、矢吹晋氏が来福、安積桑野会の石川会長、新澤副会長、広瀬安積高校校長に考え方のあらましを報告した。翌7日には、県庁に佐藤知事、高城県教育長を訪ね、主旨を説明した結果、賛同して頂き、行政としてヒト・モノ・

カネそれぞれについて、どのような参加の仕方が望ましいのか、新年度早々からワーキンググループで協議を始めることになった。

また、朝河貫一の資料の収集、保管のセンター的役割を「福島県立図書館」にお願いしたいとの要請もあわせて行い、佐藤知事も深い理解を示していただいた。

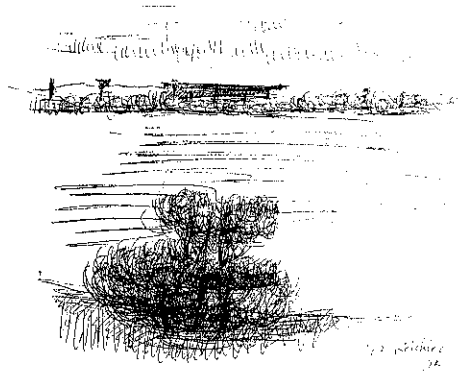
一方、常設の事務局については、安積歴史博物館(安積高校内)に置くこととし、二本松市教育委員会と福島市教育委員会に事務局支部を置くことと共に、あらゆる対外折衝の拠点としての「本部」は、東京に置くのが望ましいとの考え方が示されている。

最大の課題は、協議会の活動経費である。例えば、その手始めとして、平成16年版を初版として「朝河貫一顕彰カレンダー」——内外の写真、歴史年表等によって構成——を発刊、一部2千円(税込)、5千セットを販売し、益金を安積歴史博物館の運営費支援と事務局経費に充当しては如何かと考えている。

「9・11同時多発テロ」の後、世界は再び変わったと言われる。国際協調の根幹をなす信頼が揺らいでいるかに他ならない。「日露戦争」終結後のポーツマス講和条約締結のその時——今から100年前に“国際協調こそが世界平和のキーワードである”ことを提唱して止まなかった朝河貫一の慧眼と強い思いが今甦る。

東京桑野会諸賢の知恵と力に期待するところ誠に大いなるものがある。

(福島テレビ常務取締役)



画：宮本興一郎(71期)

編集後記

●同期の岩谷徹さんから寄稿頂いた。本文にあるとおり、在仏30年を経て現在は郡山に在住。会報11号寄稿（1989年）からでも、14年が経つ。その時のパリの岩谷さんとの何回かの「エアログラム」往復による、原稿依頼が昨日のようだ。4月の東京での個展を楽しみにしています。

来年2003年は母校創立120周年の記念すべき節目の年になります。より多くの会員の参加で記念の総会を盛り上げたいものです。

事務局では、総会終了後に「母校創立120周年記念総会プロジェクト」を立ち上げて準備に入りたいと考えます。会員諸兄のアイデアと企画への積極的なご参加をお願いします。

若手の期（特に三桁の期）からの各期幹事の増員などが緊急の課題です。HPの威力がいよいよ発揮されるものと期待します。（67期 水口禎）

●竹花栄明先生が、逝った。2年生の時の担任であり、もちろん先生の専門である「世界史」を教わったが、先生の当時のお宅と編集子の実家が近かったこと、魚屋であった実家のお得意先であったことなどの事情から中学時代からの顔見知りであり、その後も従兄弟や甥が安積でお世話になったことなどもあって、先生とは半世紀近いお付き合いをさせていただいた。最後は2年前の磐梯熱海「一力」でのクラス会であったが、その時は全くお元気で、東京桑野会報への寄稿をお願いし、快く引き受けて頂いた。この会報にも先輩・後輩諸氏の先生との思い出が多く載っているが、編集子も大学入学後、悪友共と先生宅の隣りにあった酒屋で酒を買い、美人の奥様の手料理を肴におおいに飲んだことなど懐かしい思い出が尽きない。ご冥福をお祈りします。

今年の正月、自動車事故に巻き込まれ（加害者に非ず、被害者の立場だけがもなく幸運であったが）運転時の携帯電話の必要性を痛感（それまでは携帯不要論者であった）、早速購入した。相変わらず普段は携帯不要論者で、スイッチオフの状態だが、最近パソコン、携帯電話は「当たり前」の時代に

なり、わが東京桑野会にも「ホームページ」なるものが登場した。その立ち上げに若い安積OBの諸氏が積極的に協力してくれたとのこと。会報編集はあいも変わらずのメンバーでやっているが、こちらの方もそろそろ若手のOB諸氏にバトンタッチする時期に来ていると想う。関心のある後輩諸氏よ、ぜひ参加頂きたい。（71期 増子邦雄）

●イラストは（71期）宮本興一郎さんをお願いしました。宮本さんは福島大卒。私が安積在学中から、郡山での各展覧会を通して存じあげておりました。以来、何年も疎遠のままでしたが、（67期）岩谷徹さんの東京での個展の折、偶然、会場でお会いしました。

その折、目下、絵画制作続行中、頻繁に発表中とのこと。既に、ベニス、アテネ、パリ、バルセロナ、メルボルン、N・Y、国内東京他で発表の実績があること。佐藤栄佐久知事は宮本作品のコレクターであること。岩谷さんのパリのアパートに、これから出かけること。等々、お話を沢山伺いました。

その時、私の職業病で「会報のイラスト」のお願いをしておきました。その縁で、今回の登場となりました。

作品は、それはそれは実に美しいペンのスケッチです。線が「生きている」から躍動して輝いて見えるのです。お陰様で、今回の号も、明るく楽しくなりました。感謝いたします。

（74期 高松豊）



画：宮本興一郎（71期）

事務局便り

●会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきてしまうので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願い致します。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

●総会の出欠葉書を同封していますが、事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。時々ご自分の期と卒業年を間違えておられる方がいらっしゃいますが、会報をお送りした封筒の宛名ラベルの右下に記入してあるのがご自分の期ですので、お間違えないようお願い致します。勤務先は変更がなければ省略していただいても結構です。

そして、連絡もれもあるかと思われまますので、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いします。

『東京桑野会会報』No.25

2003年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

斉藤法律事務所気付

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-6678

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

E-mail: info@tokyo-kuwano.com

製作●株式会社パンオフィス

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-2-7

Tel 03-5280-9690 Fax 03-5280-9691